

XRF V3.8.1
リリースノート

本書の構成

本書には以下のバージョンのリリースノートが収録されています。

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 1. XRF V3.8.1 | 32. XRF V3.6.1 Lv01 |
| 2. XRF V3.8.0 Lv01 | 33. XRF V3.6.1 |
| 3. XRF V3.8.0 | 34. XRF V3.6.0 Lv12 |
| 4. XRF V3.7.3 | 35. XRF V3.6.0 Lv11 |
| 5. XRF V3.7.2 Lv03 | 36. XRF V3.6.0 Lv10 |
| 6. XRF V3.7.2 Lv02 | 37. XRF V3.6.0 Lv09 |
| 7. XRF V3.7.2 Lv01 | 38. XRF V3.6.0 Lv08 |
| 8. XRF V3.7.2 | 39. XRF V3.6.0 Lv07 |
| 9. XRF V3.6.11 Lv02 | 40. XRF V3.6.0 Lv06 |
| 10. XRF V3.6.11 Lv01 | 41. XRF V3.6.0 Lv05 |
| 11. XRF V3.6.11 | 42. XRF V3.6.0 Lv04 |
| 12. XRF V3.6.10 Lv02 | 43. XRF V3.6.0 Lv03 |
| 13. XRF V3.6.10 Lv01 | 44. XRF V3.6.0 Lv02 |
| 14. XRF V3.6.10 | 45. XRF V3.6.0 |
| 15. XRF V3.6.9 | 46. XRF V3.5.0Lv02 |
| 16. XRF V3.6.8 | 47. XRF 3.5.0Lv01 |
| 17. XRF V3.6.7 | 48. XRF 3.5.0 |
| 18. XRF V3.6.6 Lv01 | 49. XRF 3.4.7 |
| 19. XRF V3.6.6 | 50. XRF 3.4.6 |
| 20. XRF V3.6.5 Lv19 | 51. XRF 3.4.5 |
| 21. XRF V3.6.5 Lv15 | 52. XRF 3.4.4 |
| 22. XRF V3.6.5 Lv11 | 53. XRF 3.4.3 |
| 23. XRF V3.6.5 Lv07 | 54. XRF Designer 3.4.2 |
| 24. XRF V3.6.5 Lv06 | 55. XRF Composer 3.4.2 |
| 25. XRF V3.6.5 Lv05 | 56. XRF Composer 3.4.2 PDF Edition |
| 26. XRF V3.6.5 Lv03 | 57. XRF Reader 3.4.2 |
| 27. XRF V3.6.4 | 58. XRF Designer 3.4.1 |
| 28. XRF V3.6.3 Lv01 | 59. XRF Composer 3.4.1 |
| 29. XRF V3.6.3 | 60. XRF Composer 3.4.1 PDF Edition |
| 30. XRF V3.6.1 Lv05 | 61. XRF Reader 3.4.1 |
| 31. XRF V3.6.1 Lv02 | 62. XRF Reader 3.4.0 |

■商標について

XRF、BSP-RM、SmartConductorは、株式会社ユニタの商標または登録商標です。

Windows、Microsoft Visual C++は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Java、JREは、米国Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載されている社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

XRF 3.8.1 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Designer/XRF Viewer、XRF Reader、および、XRF Composerにおいて、Windows Server 2022、Windows 11(x64)に対応しました。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能の変更または修正されました。

1. 製品が内包するJava実行環境（JRE）を「Adoptium jdk-11.0.16+8 (64bit)」へ更新しました。
2. XRF Designerにおいて、テーブルビューでレコードを選択状態にすると、変更を行っていないのに 標準ツールバー上の「元に戻す」「やり直し」のボタンが活性状態になる不具合を修正しました。
3. XRF Designerにおいて、動作環境設定ファイル(nfhconfig.xml)に、画面で設定した固定テキスト、ユーザフィールドのフォントスタイルの情報が正しく登録できない不具合を修正しました。
4. XRF Designerにおいて、メニュー表示「メニュー > 表示 > 表示フィルタ > マスクキング」の「マスクキング」を「マスキング」に修正しました。
5. XRF Designerにおいて、レコードを跨ったアンドウ／リドゥ処理で、元に戻す対象のオブジェクトが消失する不具合を修正しました。
6. XRF Readerにおいて、「環境設定」ダイアログ「ジョブファイル印刷設定」画面の「XRFファイル一時解凍先」と「ログレポート出力先」のフォルダ「参照」ボタンの紐づけが逆になっている不具合を修正しました。
7. XRF Readerにおいて、「印刷設定」ダイアログ「両面指定」プルダウンの「長辺綴じ」を「長辺とじ」に修正しました。
8. XRF Readerにおいて、描画互換オプション設定ファイル(drawoption.properties)をインストール時に「<インストールディレクトリ>\¥conf」に配置するように修正しました。
9. XRF Readerにおいて、ロット化形式帳票の1ジョブ化印刷機能の一時ファイル出力先パスに関する以下の不具合を修正しました。
(1)一時ファイル出力先をURIパスで指定する場合、半角スペースを含むURIパスを指定できない。
(2)XRF Readerをシステムドライブ以外にインストールしていると1ジョブ化印刷が失敗する。
10. XRF Readerにおいて、参照するジョブファイルのパスがURLで指定された場合、URL先に接続し、ジョブファイル(XJFファイル)を一時ファイルとしてローカルに保存する。ジョブファイル処理後に、保存した一時ファイルを削除していない不具合を修正しました。
11. Winodws OSのメンテナンスタスクにて、以下の環境変数に該当するフォルダのファイルは削除される可能性があります。
「 %TEMP% 」 、 「 %WINDIR%\¥Temp 」 、 「 %WINDIR%\¥Logs 」 、 「%WINDIR%\¥System32\¥LogFiles」
そのため、XRFの設定ファイルに一時ディレクトリのパスが未指定の場合に使用する一時ディレクトリを「"java.io.tmpdir"」から「%APPDATA%」配下のフォルダに変更しました。
12. XRF Readerに以下の終了値が追加されました。
・-213(常駐モジュールの通信初期化失敗)
・-67(常駐モジュールの要求受付終了)
13. XRF Readerの起動時やファイル表示・印刷の要求を受け付けた場合のログメッセージを一部見直しました。

14. **XRF Designer**において、レコードのコントローラ部分をダブルクリックしてプロパティダイアログを表示した場合、レコードの名前を変更してもツリーオブジェクトの値が即時更新されない不具合を修正しました。
15. **XRF Designer**において、レコードの名前の変更後、変更したレコードから選択状態が外れた状態でリドゥ処理を行うと**XRF Designer**の画面がロックする不具合を修正しました。
16. **XRF Reader** において、ロット化形式帳票の 1 ジョブ化印刷機能のマージ印刷で、部単位印刷を行った際にマージ後のファイルが削除されない不具合を修正しました。

XRF 3.8.0 Lv01 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Readerにおいて、ログ出力に使用するApache Log4jライブラリを、脆弱性CVE-2021-44228が修正されたバージョンに更新しました。

XRF 3.8.0 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Composerにおいて、Red Hat Enterprise Linux 8.3 (x64) に対応しました。
2. ログ出力に使用するライブラリをlog4jからlog4j2に更新しました。
3. 通信方式をRMI通信からソケット通信に変更しました。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 製品が内包するJava実行環境 (JRE) を「AdoptOpen JDK11.0.11+10 (64bit)」へ更新しました。
これに伴い、32bitOSのサポートを廃止しました。
2. Windows 8.1(32bit、64bit)の対応を廃止しました。
3. XRF ComposerのファイルパスおよびメインパスにおいてUNCパスの指定に対応しました。また、パス指定のロジックの見直しを行いました。
※パス指定の詳細な仕様はXRFComposer V3.8 開発ガイドの「7.3 XRF Composerにおける絶対パス・相対パスの扱いについて」をご確認ください。
4. XRF Readerにおいて、OSのシステム言語を日本語・英語以外に変更した場合にXRF Readerが起動しない不具合を修正しました。
5. XRF Readerにおいて、コマンドラインオプションで表示・印刷要求をXRF Readerが常駐起動されていない状態で行った際に、印刷結果が不正な値になる不具合を修正しました。
6. XRF Readerの環境設定ダイアログのジョブファイル印刷設定において、参照ボタンが正しく表示されない不具合を修正しました。
7. XRF Readerの印刷に失敗した際に、処理が終わらずタイムアウトしない不具合を修正しました。
8. XRF Designerにおいて、トレースフォームのページを複数削除した際に、削除したページがページタブとオブジェクトツリーに表示されたままになる不具合を修正しました。
9. XRF Designerにおいて、トレースフォームの共有モードにチェックを入れた状態でオブジェクトの名前を変更し、「元に戻す」を押した際に複写ページのオブジェクト名が変更されない不具合を修正しました。
10. XRF Designerの動作環境ダイアログで、用紙サイズを「Custom」以外に指定した状態で幅または高さを変更した場合に、用紙サイズが「Custom」に変更されず、ダイアログに表示される幅または高さを変更されない不具合を修正しました。
11. XRF Designerのオブジェクトの色にラジアルタイプのグラデーションを使用する帳票の描画が一部変更されます。
12. XRF Designerのグラフの種類をレーダーチャートから他のグラフに変更した場合に、詳細設定ダイアログが開かなくなる不具合を修正しました。
13. XRF Viewerの表示において、データファイル名の拡張子が大文字の場合に帳票が開けない不具合を修正しました。
14. リンクテーブルを使用した帳票において、テーブル領域にテーブル領域よりも高いタイトルレコードを設定した場合にテーブル領域をはみ出してタイトルレコードを描画する不具合を修正しました。
15. リンクテーブルにタイトルレコードを設定した帳票に、テーブル領域にテーブル領域よりも高いヘッダレコード、サマリレコード、フッタレコードを設定した場合にテーブル作成がエラーにな

らず、マッピングが終わらなくなる不具合を修正しました。

16. XRF Composerで生成したPDFにおいて、マスクが有効にならない不具合を修正しました。
17. XRF Designerにおいて、ページビューからマスクが選択できない不具合を修正しました。
18. XRF Designer、XRF Viewer、XRF Readerにおいて、表示倍率を上げた際に、フォントサイズが大きいテキストの文字幅が異常になる不具合を修正しました。
本不具合が発生すると、文字幅が狭くなり、文字が重なって表示されていました。
19. Internet Explorerがインストールされていない環境で、XRF Designerのデータ定義体の編集でブラウザビューを選択した場合に、ブラウザビューが開かれない不具合を修正しました。

3. 互換性について

1. XRF V3.8はXRF V3.7以前のバージョンと通信できません。これは、本バージョンから通信処理を変更しているためです。
2. XRF V3.8は内包するJavaの変更により、XRF V3.7以前のバージョンと印字差異があります。概要は次の通りです。詳細は『XRF 制限一覧』を参照してください。
 - XRF表示において、グラフのX軸の年月の表示が過去バージョンと異なります。
 - PDFにおいて、グラフのX軸の年月の表示が過去バージョンと異なります。
 - DTEXT関数の表示が過去バージョンと異なります。
 - 文字の太字や斜体の描画が異なります。また、プロポーショナルフォントの文字幅も異なります。

XRF 3.7.3 Lv02 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. **XRF Reader**において、インストーラの不具合を改修しました。
インストール時に、登録されるスタートアップのリンク先情報に誤りがあり、ユーザログオン時に**XRF Reader**のバックグラウンドプロセスが開始されていませんでした。
また、スタートアップの登録は、インストール時に「リモート接続を使用する」を選択した場合にのみ行われるため、この選択をしていない場合は当不具合は影響ありません。
本不具合は**XRF 3.7.2以降（3.7.2 / 3.7.2 Lv02 / 3.7.3）**で発生します。

XRF 3.7.3 Lv01 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Composer のコマンドライン実行用の Java クラス (XRFBootStrap) において、XRFBootStrap.execute メソッドを使用した場合に、処理結果のログメッセージを出力するように修正しました。

なお、XRFBootStrap.execute メソッドは関連製品からの呼び出しを想定したものです。通常のコマンドライン実行時に使用する XRFBootStrap.main メソッドにおいては、本修正の影響はありません。

XRF 3.7.3 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Designer/XRF Viewer、および、XRF Readerにおいて、Windows Server 2019に対応しました。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 製品が内包するJava実行環境（JRE）を「8u202」へ更新しました。
2. XRF ReaderおよびXRF Viewerにおいて、リンクテーブルまたは固定テーブルにフッタレコードを設定した帳票を表示する場合に、実行環境の画面解像度あるいは製品画面の表示倍率によって、テーブルのレコード出力の計算が不正になってしまう場合がある不具合を修正しました。

本不具合が発生する可能性があるフォームは次の通りです。

- リンクテーブルまたは固定テーブルにフッタレコードが設定されており、フッタレコードの[プロパティ]・[全般]・[固定領域を確保する]が有効になっている。
- 使用するテーブルが固定テーブルの場合は、フォームにページ定義が2ページ以上あり、2ページ目以降に固定テーブルを配置している。あるいは、ページ定義が1ページ以上で1ページ目に固定テーブルを配置しており、そのフォームがサイクリック形式である（フォームの[プロパティ]・[全般]・[サイクリック]を有効にしている）。

また、本不具合では具体的な事象として次が発生する場合があります。

- 明細レコード、サマリレコード、フッタレコードが本来収まるべきページに表示されない。
- フッタレコードが表示されない、あるいは不正な位置に表示されてしまう。
- 使用するテーブルが固定テーブルの場合は、テーブル領域にレコードが収まりきれずエラーとなり帳票を開くことができない。

ただし、上記フォームを使用しても、帳票データによっては事象が発生しない場合があります。また、実行環境の画面解像度が72 dpi、かつ、製品の画面表示倍率が100%の場合には発生しません。

本不具合はXRF 3.6.11以降（3.6.11 / 3.7.2 / 3.7.2 Lv01 / 3.7.2 Lv02）で発生します。

3. XRF ReaderおよびXRF Viewerにおいて、リンクテーブルにタイトルレコードを設定した帳票を表示する場合に、実行環境の画面解像度あるいは製品画面の表示倍率によって、タイトルレコードが表示されない場合がある不具合を修正しました。

本不具合が発生する可能性があるフォームは次の通りです。

- フォームにリンクテーブルと継続テーブルが合わせて使用され、かつ、1つのページ定義上に複数のテーブルが配置されており、リンクテーブルにはタイトルレコードとサマリレコードが設定されている。更に、リンクテーブルには改ページの条件が指定されている（リンクテーブルの[プロパティ]・[改ページと改テーブル]・[次のフィールドの値が変化した場合に改ページする]を有効にしている）。サマリレコードの出力位置が「集計対象レコード後」に設定されている（サマリレコードの[プロパティ]・[サマリレコード]・[出力位置]で「集計対象レコード後」を選択している）。

ただし、上記フォームを使用しても、帳票データによっては事象が発生しない場合があります。また、実行環境の画面解像度が72 dpi、かつ、製品の画面表示倍率が100%の場合には発生しません。

本不具合はXRF 3.6.11以降（3.6.11 / 3.7.2 / 3.7.2 Lv01 / 3.7.2 Lv02）で発生します。

4. リンクテーブルを使用した帳票において、ヘッダレコードが出力されない場合がある不具合を修正しました。本不具合は、XRF ReaderおよびXRF Viewerにおける表示・印刷、XRF ComposerにおけるPDF生成において発生します。

また、本不具合が発生する可能性があるフォームは次の通りです。

- フォームにリンクテーブルと継続テーブルが合わせて使用され、かつ、1つのページ定義上に複数のテーブルが配置されており、リンクテーブルにはヘッダレコード、タイトルレコード、サマリレコードが設定されている。更に、リンクテーブルには改ページの条件が指定されている（リンクテーブルの[プロパティ]・[改ページと改テーブル]・[次のフィールドの値が変化した場合に改ページする]を有効にしている）。サマリレコードの出力位置が「集計対象レコード後」に設定されている（サマリレコードの[プロパティ]・[サマリレコード]・[出力位置]で「集計対象レコード後」を選択している）。ヘッダレコードの固定領域を確保していない（ヘッダレコードの[プロパティ]・[全般]・[固定領域を確保する]を選択していない）。

ただし、上記フォームを使用しても、帳票データによっては事象が発生しません。

なお、上記2、3と異なり、実行環境の画面解像度や製品の画面表示倍率に関係なく発生します。

5. XRF Readerにおいて、使用メモリサイズの設定が有効にならない不具合を修正しました。なお、この設定は[オプション]・[環境設定]メニューから、環境設定ダイアログを開き、[ユーザ環境設定]－[使用メモリサイズ]に指定します。使用メモリサイズの設定が有効にならないことで、使用できるメモリが不足し、帳票の表示や印刷が正しく行われない場合があります。

本不具合はXRF 3.7.2以降（3.7.2 / 3.7.2 Lv01 / 3.7.2 Lv02）で発生します。

6. グラフ機能において、HiLoチャート、HiLoOpenCloseチャート、ローソク足を使用した場合に、X軸の目盛からデータのプロットがずれてしまう不具合を修正しました。

例えば、データがX年1月1日の場合に、X年1月1日の目盛の位置ではなく、X年1月1日と同2日の目盛の間にプロットされてしまう場合があります。

7. XRF Designerの一部ダイアログにおいて、項目表記の誤植を修正しました。

XRF 3.7.2 Lv03 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Composer が Windows Server 2019 ならびに JDK 11(※1) に対応しました。

※1 JDK 11は、AdoptOpenJDKコミュニティが提供するOpenJDKを標準としてサポートします。
Oracle社有償のOracle JDKについては動作検証未検証であり、ベストエフォートでの対応となります。

XRF 3.7.2 Lv02 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. リンクテーブルを使用した帳票において、サマリレコードが出力されない場合がある不具合を修正しました。発生条件は次の両方を満たす場合になります。
 - フォームにリンクテーブルが使用されている。また、リンクテーブルにサマリレコードが使用されており、かつ、サマリレコードの出力位置の設定に「集計対象レコード後」が指定されている。
 - 帳票の出力時に、サマリレコードの処理においてテーブル領域に収まらず次のテーブル領域に溢れて出力された後の明細データもサマリレコードの出力条件を満たした場合。
(レコードが「サマリ→明細→サマリ」の順で出力され、かつ、1つ目のサマリレコードが溢れて出力される場合に、2つ目のサマリレコードが出力されない)
2. リンクテーブルを使用した帳票において、明細レコードの改ページあるいは改テーブルが正しく行われない場合がある不具合を修正しました。発生条件は次の両方を満たす場合になります。
 - フォームにリンクテーブルが使用され、改ページあるいは改テーブルの条件が指定されている。また、リンクテーブルにサマリレコードが使用されており、かつ、サマリレコードの出力位置の設定に「集計対象レコード後」が指定されている。
 - 帳票の出力時に、同一明細データにより「サマリレコードの出力条件」と「改ページと改テーブルの条件」が同時に満たされ、かつ、サマリレコードの処理においてテーブル領域に収まらず次のテーブル領域に溢れて出力される場合。
(溢れて出力されたサマリレコードの直後の明細レコードにおいて改ページあるいは改テーブルが行われない)
3. XRF Readerにおいて、ページ数の多い帳票の場合に、保存することができない不具合を修正しました。なお、本不具合は、動作モードが一時ファイルモードの場合に発生します。現在指定している動作モードの確認および変更方法は、『XRF Reader V3.7 操作マニュアル 第1版』の「6.3 環境設定」および「6.3.2 システム設定」を参照してください。
4. XRF Designerにおいて、サマリレコードの優先順位を変更して保存しても、変更内容が反映されない不具合を修正しました。
5. XRF Designerの印刷プレビュー画面において、ツールバー上のグリッド線、固定フィールド (図形)、ユーザフィールド (データフィールド) の表示/非表示の切替え機能のボタンが、表示されている状態と一致しない不具合を修正しました。
6. XRF DesignerのXRTツリービューの表示上、テーブルのレコードの階層が重複して表示されている様にみえる不具合を修正しました。
7. XRF Designerの一部ダイアログにおいて、項目表記の誤植を修正しました。

8. XRF Viewerの「開く」ダイアログにおいて、選択されたデータファイルのタイプ（xml、csv、text ファイル）に応じて指定可能な設定項目のみ入力を有効化し、指定できない項目は無効化（非活性化）にするように変更しました。

【データファイルの指定可能な設定項目】

データファイル	エンコード	デリミタ	捨て文字	エスケープシーケンスを有効にする
XML ファイル (*.xml)	指定不可	指定不可	指定不可	指定不可
CSV ファイル (*.csv)	指定可	指定不可	指定不可	指定可
TEXT ファイル (*.txt 、 *.dat)	指定可	指定可	指定可	指定不可

XRF 3.7.2 Lv01 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. ビルド式解析処理のパフォーマンスを改善しました。特に極端に長いビルド式が設定されたフォームを使用する場合の解析処理時間が大幅に改善します。また、その結果として、XRF ComposerにおけるPDF生成時間、XRF ReaderにおけるXRF表示・印刷時間が短縮されます。
2. XRF Designerにおいて、用紙方向を横向きに指定されたフォームを編集集中にページプロパティダイアログを開くと、用紙方向の実際の設定値が横にも関わらずダイアログ上では縦が選択された状態となる不具合を修正しました。なお、この不具合はV3.6.7以降で存在しています。
3. XRF Designerのフォーム編集機能において、複数の直線オブジェクトをグループ化したときに、オブジェクトの縦位置が不正な値（-0.0）に変換されてしまう場合がある不具合を改修しました。
4. XRF Designerのフォーム編集画面において、オブジェクトツリーにおいてフォームのファイル名の項目をダブルクリックすると、マウスのアイコンがビジー状態になる不具合を修正しました。
5. XRF Viewerの開くダイアログにおいて、フォームファイルの「参照」ボタンで表示されるフォルダのデフォルト値をXRF Designerのフォーム保存フォルダである%APPDATA%\XRF Designer\data\rotに変更しました。
6. XRF Composerで帳票を作成する際に指定する出力ファイル名に無効な文字（: など）が含まれている場合にエラーにならず、帳票も生成されない不具合を改修しました。
7. XRF Composerで生成するPDFファイルにおいて、MiterLimitコマンドで指定される値が大きすぎる不具合を修正しました。この不具合は連続線や多角形のオブジェクトを使用したフォームを使いPDFを生成した場合に発生していました。また、大きすぎるMiterLimitの値が指定されたPDFをAdobe Readerで印刷した場合には、一部の図形や塗り潰しが実際の位置とはずれて印字される、あるいは印字自体がされないなどの事象が発生することがありました。

XRF 3.7.2 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Designer/XRF Viewer、XRF Composer、および、XRF Readerにおいて、Windows Server 2016に対応しました。
2. XRF Designer/XRF Viewer、および、XRF Readerにおいて、実行モジュール（EXEファイル）が新しくなりました。これによりXRF Readerでは、Windows 10から追加された「ジャンプリスト」に対応しました。なお、実行モジュールはMicrosoft Visual C++ 2017ランタイムに対応しております。また、実行モジュールの変更に伴い、実行モジュールが使用する設定ファイルが変更されました。
3. グラフ機能が新しくなりました。XRF Designerにおいてはグラフの設定画面を一から見直し使いやすくなりました。利用できるグラフの種類や基本的な表現については、これまでと同様の機能となっており、旧バージョンで作成したグラフを定義しているフォームは引き続き利用可能です。しかしながら、詳細な表現については互換性がありません。新しくなったグラフの表現をあらかじめ確認のうえで、帳票作成や印刷にご利用ください。また、本バージョンを使って新しいグラフを定義したフォームについても、基本的には旧バージョンのXRF ComposerやXRF Readerで利用可能となりますが、詳細な表現については本バージョンとは異なりますのでご注意ください。

2. 機能の変更/廃止について

本バージョンより以下の機能が変更・修正または廃止されました。

1. 製品が内包するJava実行環境（JRE）を「8u152」へ更新しました。また、使用するOSSライブラリを新しいバージョンへ更新しました。
2. ログメッセージに出力されていた日本語メッセージ、および、一部のエラーダイアログの日本語メッセージを英語へ変更しました。
3. XRF Designerにおいて、一部のダイアログのレイアウトが修正されました。
4. XRF Designerにおいて、OCRオプションを廃止しました。
5. XRF Readerにおいて、プリンタチェック機能を廃止しました。

XRF 3.7.1 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. ダイナミックオーバーレイ機能に、1つの帳票データ（CSV形式のみ）と複数のフォームから、1つの帳票ファイルを生成する機能を追加しました。機能の詳細は『XRF Composer 開発ガイド』を参照してください。

2. 機能の変更について

本バージョンで変更または修正された機能はありません。

XRF 3.6.11 Lv02 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Composerのリモート処理機能(XRF Remote Launch Broker API)において、指定された要求先XRF Readerにホスト名に対して複数IPアドレスが取得される場合に、取得されたすべてのIPアドレスの接続を試み、最初に接続成功したIPアドレスを使用して処理を実行するよう修正しました。これまでは、取得されたIPアドレスのうち1つに対してのみ接続を試みる実装となっており、取得された他のIPアドレスで接続可能である場合でもリモート処理機能がエラーとなっていました。

XRF 3.6.11 Lv01 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Composerにおいて、AIX 7.1 (x64) に対応しました。
2. XRF Composerにおいて、RedHat Enterprise Linux 7.2 (x64) に対応しました。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能の変更または修正されました。

1. XRF Composerが使用するロギングライブラリ(log4j)のログカテゴリを変更しました。
変更前 : rootCategory
変更後 : jp.co.unirita.xrf

XRF 3.6.11 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Readerのインストーラを改善し、インストール画面から「リモート接続の設定」と「フォント設定ファイルの指定」ができるようになりました。詳しくは『インストールガイド』を参照してください。
「リモート接続の設定」
リモート接続を使用するかどうか、および、使用する場合のリモート接続用ポート番号を設定することができます。
「フォント設定ファイルの指定」
XRF Readerで使用するフォントを管理するためのフォント設定ファイル(fontNamesInfo.xml)を、インストーラの画面から指定できるようになりました。
2. XRF Readerにおいて表示倍率の動作を改善しました。
XRFファイルを開く際に、前回表示時の表示倍率で表示するようになりました。
また、これまでは画面の解像度が高い場合に、XRF Reader上で帳票のページが小さく表示されていましたが、画面の解像度に合わせて表示されるように修正しました。

XRF 3.6.10 Lv02 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Designerにおいて、Windows 10 (x64) に対応しました。
 なお、本対応にともないXRF Designerで作成されるフォーム等のデータファイルの保存場所が変更されています。変更内容については次章の『2. 機能の変更について』を参照してください。
 また、データファイルの保存場所を変更したことで、V3.6.9以前の旧バージョンで作成したデータファイルを継続して使用する場合は、データファイルを移行していただく必要があります。移行手順は『3. XRF Designerのデータファイル等移行手順』を参照してください。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能の変更または修正されました。

1. XRF Designerの標準ユーザ権限対応
 XRF DesignerのWindows 10対応にともない、XRF Designerを標準ユーザ権限でできるように修正しました。これまでXRF Designerを起動する際に、Windowsのユーザアカウント制御機能によって表示されていた権限昇格ダイアログは表示されません。
2. XRF Designerのデータファイルおよび設定ファイル等の保存場所変更
 XRF DesignerのWindows 10対応にともない、XRF DesignerおよびXRF Viewerのリソースファイルの保存場所を変更しました。この変更はすべてのWindowsプラットフォームに適用されます。変更箇所については、下表をご確認ください。
 なお、フォーム等のデータファイルが保存されるフォルダは、XRF Designerのメニュー [ファイル]-[dataフォルダを開く] から参照することができます。また、この変更により、V3.6.9以前の旧バージョンで作成したデータファイルを継続して使用する場合は、データファイルを移行していただく必要があります。移行手順は『3. XRF Designerのデータファイル等移行手順』を参照してください。

【リソース保存場所の変更】

アプリケーション	ファイル名	以前の保存場所	新しい保存場所
XRF Designer	dbsettings.xml	{インストールフォルダ}¥Server¥conf	%APPDATA%¥XRF Designer¥conf
	log4j.properties		
	nfhconfig.xml	{インストールフォルダ}¥Clients¥conf	
	フォーム等のデータファイル	{インストールフォルダ}¥Server¥data¥...	%APPDATA%¥XRF Designer¥data¥...
	server.log	{インストールフォルダ}¥Server¥log	%APPDATA%¥XRF Designer¥log
XRF Viewer	xvdsys.xml	{インストールフォルダ}¥conf	%APPDATA%¥XRF Viewer¥conf
	log4j.properties		
	viewer.log	{インストールフォルダ}¥log	%APPDATA%¥XRF Viewer¥log

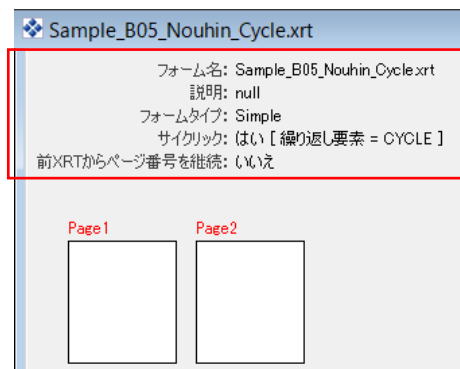
※ 表中の環境変数「%APPDATA%」で表記しているアプリケーションデータフォルダは、Windowsプラットフォームにより異なります。

3. XRF Designerのフォーム編集機能において、重なりあったオブジェクトの選択を改善しました。
 重なったオブジェクト上でシングルクリックを繰り返すことで、選択するオブジェクトが後ろに隠れているオブジェクトに切り替わります。

4. XRF Designerのフォーム編集機能において、固定テキストの文字列およびデータフィールドのビルド式を入力するテキストエリアの編集操作で「やり直し/元に戻す」に対応しました。
テキストエリアに入力している状態で、ショートカットキー「Ctrl+Z」を押すことで「やり直し」、同じく「Ctrl+Y」を押すことで「元に戻す」が操作できます。
5. XRF Designerのフォームのプロパティダイアログにおいて、フォームの説明を入力できるように修正しました。
6. XRF Designerにおいてフォーム編集時に表示されるオブジェクトツールバーの表示位置を、フレームの上または下に切り替えられるよう修正しました。
7. XRF Designerの印刷プレビュー画面を改善しました。
ツールバーのレイアウトを変更するとともに、印刷プレビューの印刷イメージをクリップボードへコピーする機能を追加しました。



8. XRF DesignerのXRTビュー画面でフォームのプロパティ情報の一部を表示するようにしました。
これまでは、フォームのプロパティ情報を確認するためにはフォームのプロパティダイアログを表示する操作が必要でしたが、その操作がなくなります。
XRTビュー画面で表示されるプロパティ情報はフォーム名、説明、フォームタイプ、サイクリックの繰り返し要素タグ名、前XRTからページ番号を継続するかどうかの設定です。



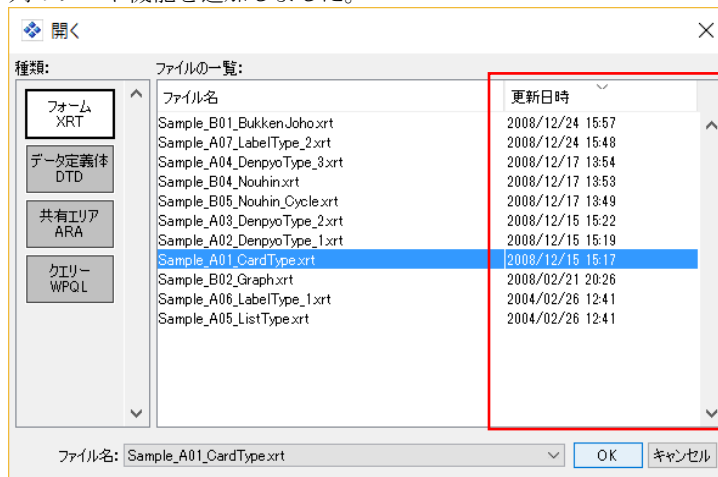
9. Designerのテーブルビュー画面のレイアウトを改善しました。
各レコードの左端にあるコントローラ部分にレコードの種類を示す記号を表記し、テーブルビュー画面上でレコードの種類を識別できるようにしました。
また、テーブルビュー画面のマウスでの操作性を改善しました。

T	商品名	単価	個数	価格
D1	13XXXXXXXXXX	###0		###0
F		小計		###0
		消費税		###0
		合計		###0

なお、レコードの種類を示す記号は、レコードの種類の頭文字を表すアルファベットとインデックスで構成されます。

記号	意味
H	ヘッダレコード
T	タイトルレコード
D +インデックス	明細レコード
S +インデックス	サマリレコード
F	フッタレコード

10. XRF Designerのテーブルのプロパティダイアログで、列幅を入力できるように修正しました。
11. XRF Designerの開くダイアログにおいて、ファイル一覧に更新日付の表示を追加するとともに、列のソート機能を追加しました。



12. XRF Readerにおいて、開くコマンドのファイルパスが文字化けすることがある問題について修正しました。ファイルパスに中国語などの文字を含む場合に発生していました。
13. XRF ViewerおよびXRF Composer、XRF Readerにおいて、XMLおよびCSVのユーザデータの文字コード指定でMS932 (Windows-31J) を正しく扱えるように修正しました。
これまでは、指定がMS932 (Windows-31J) の場合に、テキストが文字化けすることや、XRF ReaderでXRFファイルを開くことができないことがありました。
14. XRF ComposerのPDF生成機能において、複数のフォーム (XPF) にそれぞれ同名で内容の異なるデータ定義体 (DTD) を含む場合に、データ定義体のキャッシュの不具合により使用するデータ定義体の不整合が発生しPDF生成に失敗することがあるものを修正しました。
15. XRF Composerでサイクリックフォームかつテーブルを使用した帳票生成を行った場合に、CSVデータの変換処理でテーブルの繰り返しデータが欠落する場合がある不具合を修正しました。
なお、本不具合は、バージョンがV3.6.0以降で動作モードをオンメモリモードに設定したうえで、帳票生成を並行処理で行った場合に発生する場合があります。

3. XRF Designerのデータファイル等移行手順

XRF Designerの旧バージョンからXRF Designer V3.6.10Lv02へのバージョンアップする際のデータファイルおよび設定ファイルの移行手順について説明します。

● XRF Designer 旧バージョンでの作業（バージョンアップ前）

- ① XRF Designerを起動します。
- ② メニューから「ファイル」→「エクスポート」を選択し、エクスポートダイアログを起動します。
- ③ エクスポートダイアログのエクスポート種類のラジオボタンを「管理用」に変更します。
- ④ フォーム選択のXRT一覧で全てのXRTを選択し、「>>」ボタンを押してエクスポート対象にします。
- ⑤ エクスポート先を任意のディレクトリ、ファイル名で指定します。
- ⑥ 「OK」ボタンを押して、移行対象の帳票フォームのアーカイブを作成します。
アーカイブファイルは拡張子XCFで作成されます。
- ⑦ 以下の設定ファイルを任意の場所にバックアップします。
<XRF Designerインストールディレクトリ>%Clients%conf%fontNamesInfo.xml
(以下、DBアクセス機能を使用している場合のみ)
<XRF Designerインストールディレクトリ>%Server%conf%dbsettings.xml
- ⑧ XRF Designerを停止します。

● 『XRF Designerインストールガイド』の記述に従い、XRF Designerの旧バージョンをアンインストールおよびXRF V3.6.10Lv02のインストールを行ってください。

XRF Designerをアンインストールで削除した結果、XRF Designerのインストールディレクトリに不要なファイルやディレクトリが残る場合がありますので、手動で削除してください。

● XRF Designer V3.6.10Lv02 での作業（バージョンアップ後）

- ① XRF Designerを起動します。
- ② メニューから「ファイル」→「インポート」を選択し、インポートダイアログを起動します。
- ③ 「参照」ボタンを押し、バージョンアップ前の作業手順⑥で作成したXCFファイルをインポート対象として選択します。
- ④ メニューから「ファイル」→「dataフォルダを開く」を選択して、帳票フォームが正しく移行できていることを確認します。
- ⑤ バージョンアップ前の作業手順⑦でバックアップした設定ファイルを下表のコピー先へ配置します。

ファイル名	説明	コピー先
fontNamesInfo.xml	フォント設定ファイル	{インストールフォルダ}%conf
dbsettings.xml	データベース設定ファイル	%APPDATA%XRF Designer%conf

- ⑥ コピーした設定ファイルの設定情報を有効にするために、XRF Designerを再起動してください。

XRF 3.6.10 Lv01 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Composerにおいて、RedHat Enterprise Linux 7の環境でライセンス認証に失敗する場合がある問題について修正しました。

XRF 3.6.10 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Readerにおいて、Windows 10 (x64) に対応しました。

2. 機能の変更について

本バージョンで変更または修正された機能はありません。

XRF 3.6.9 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. JPCBDATA関数（カスタマバーコード文字情報の抜き出し関数）

郵便番号および住所情報の文字列から、カスタマバーコード作成に必要な文字情報を抜き出すための関数を追加しました。JPCBDATA関数の使用方法是次の通りです。

【使用方法】

JPCBDATA（ 引数1 , 引数2 ）

引数1は郵便番号です。

全角数字は半角へ変換されます。

数字以外の文字は無視されます。（郵便記号や半角スペースなどを無視します）

数字が7桁に満たない場合は0埋めします。

数字が7桁より大きい場合は切り捨てます。

引数2は住所を指定します。

指定された文字列から、カスタマバーコードのデータの仕様に従い文字情報を抜き出します。

全角数字は半角へ変換されます。

小文字アルファベットは大文字へ、全角ハイフンは半角へ置き換えます。

カスタマバーコードに必要な文字情報の抜き出し方法についての詳細は、日本郵便株式会社の公開情報「郵便番号・バーコードマニュアル」を参照してください。

(<http://www.post.japanpost.jp/zipcode/zipmanual/index.html>)

2. 機能の変更について

本バージョンで変更または修正された機能はありません。

XRF 3.6.8 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Readerマルチウィンドウ化
XRF Readerが、複数のウィンドウによりXRFファイルを同時に表示できるようになりました。
2. XRF Readerの自動ポート割り当て
XRF Readerの使用するポートを自動で割り当てできるようになりました。以前のバージョンでは、ログインユーザごとに固定のポートを設定する必要がありました。使用するポートは、XRF Reader起動時に「54432～54532」の範囲から未使用のポートを割り当てます。
なお、以前のバージョンと同様にログインユーザごとに固定のポートを設定することも可能です。
リモート表示やリモート印刷機能を利用する場合は、予め固定のポートを設定してください。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 一部のXRF Readerの設定ファイルはログインユーザのプロファイルに配置されており、XRF Readerはログインユーザごとに設定ファイルのパスを切り替えて参照します。この実装において、VDI(デスクトップ仮想化)製品のフォルダリダイレクト機能を使用した場合に、参照するパスが不正になる問題を修正しました。
2. XRF Reader管理ツールを廃止し、XRF Readerに統合しました。これまでXRF Reader管理ツールで設定していたものは、XRF Readerの[オプション]-[環境設定]メニューから行うことができます。

3. XRF Readerの設定ファイル移行手順

XRF Readerの旧バージョンからXRF Reader V3.6.8へのバージョンアップする際の設定ファイルの移行手順について説明します。

- XRF Reader 旧バージョンでの作業（バージョンアップ前）

- ① 以下の設定ファイルを任意の場所にバックアップします。

%APPDATA%\XRF Reader¥conf¥prmConfig.xml

%ALLUSERSPROFILE%\XRF Reader¥conf¥fontNamesInfo.xml

%ALLUSERSPROFILE%\XRF Reader¥conf¥trayNameNumber.xml

- 『XRF Readerインストールガイド』の記述に従い、XRF Readerの旧バージョンをアンインストールおよびXRF Reader V3.6.8のインストールを行ってください。

XRF Readerをアンインストーラで削除した結果、XRF Readerのインストールディレクトリに不要なファイルやディレクトリが残る場合がありますので、手動で削除してください。

- XRF Reader V3.6.8 での作業（バージョンアップ後）

- ① バージョンアップ前の作業手順①でバックアップした設定ファイルを下表のコピー先へ配置します。

ファイル名	説明	コピー先
prmConfig.xml	常駐設定ファイル	%APPDATA%\XRF Reader ¥conf
fontNamesInfo.xml	フォント設定ファイル	%ALLUSERSPROFILE%\XRF Reader ¥conf
trayNameNumber.xml	トレイ名番号対応表の定義ファイル	%ALLUSERSPROFILE%\XRF Reader ¥conf

XRF 3.6.7 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. テキストの部分修飾

フォーム上に配置する固定テキストとユーザフィールドにおいて、帳票に印字するテキストの一部の文字を対象とした文字修飾ができるようになりました。これまでは、各オブジェクト単位でテキストの文字修飾を指定することが可能でした。

部分文字修飾の指定は、マークアップ形式で修飾対象の文字を囲むことで行います。指定可能な修飾は「太字」「斜体」「下線」「取消線」であり、複数組合せて指定することもできます。また、部分文字修飾の有効・無効をオブジェクト単位で切り替えることができます。なお、ユーザフィールドオブジェクトにおいては、データ型が文字列型の場合のみ部分文字修飾の指定が可能となります。

詳しくは、『XRFDesigner 操作マニュアル』を参照してください。

2. テキストの禁則処理

フォーム上に配置する固定テキストとユーザフィールド、ページ番号フィールドにおいて、テキストの禁則処理に対応しました。この禁則処理により、テキストの折り返し位置が句読点や括弧が行頭・行末にならないように自動調整されます。また、禁則処理の有効・無効をオブジェクト単位で切り替えることができます。

詳しくは、『XRFDesigner 操作マニュアル』を参照してください。

3. 帳票ページ取得機能

XRF Composerに、帳票ファイルのページ数を取得する機能を追加しました。ページ数の取得ができる帳票ファイルは、XRF Composerで生成したPDFファイルです。他のアプリケーションで生成したPDFファイルはサポート対象ではありません。また、帳票生成機能においても、生成時にPDFのページ数を返すAPIを追加しました。なお、本機能はXRFファイルには対応していません。

詳しくは、『XRFComposer 開発ガイド』を参照してください。

4. CSVデータのエスケープシーケンス（改行データの指定）

帳票データとして使用するCSVデータにおいて「エスケープシーケンス」の機能を追加しました。これによりデータ中に改行文字を指定できるようになりました。

エスケープシーケンスは、エスケープ文字「¥」から始まる文字の組合せで構成され、下記の2種類になります。なお、データ中に「¥」が単独で存在した場合、データとして扱います。

また、本機能の有効・無効を、XRF Composerでは設定ファイル（conf.xml）、XRF ViewerではGUI（開くダイアログ）により切り替えることができます。

エスケープシーケンス	意味
¥n	改行文字
¥¥	文字「¥」

5. CSVからXMLへ変換する際のエスケープ処理にフル置換タイプを追加

XRFでは、CSVデータを帳票データとして扱う場合、内部的にCSVデータをXMLへ変換しています。そのため、変換の際にはXMLで使用できない文字のエスケープ処理を行いますが、XRFの既存実装では「<」「>」「&」の3文字のみをエスケープ処理の対象としていました。しかしながら、CSVデータ中にNUL文字等の制御コードが含まれる場合や、XMLデータを読み込み処理で使用しているライブラリ（Java標準のSAX Parser）でサロゲートペアを含むとエラーになる場合があるといった問題があります。

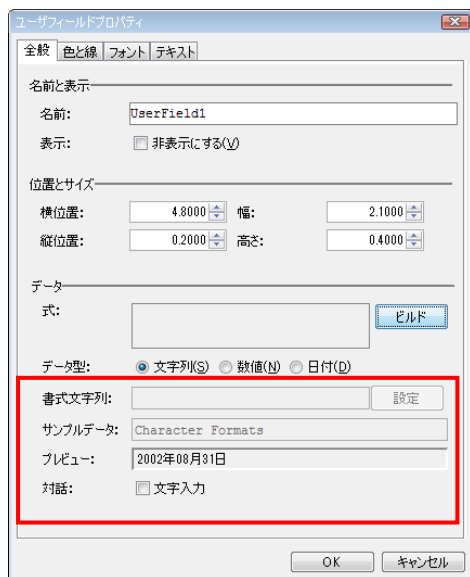
この問題に対応するため、エスケープ処理の「フル置換タイプ」を追加しました。フル置換タイプでは、改行とタブ以外の制御文字（NUL文字等）を無視し、サロゲートペアをXML文字参照へ置換します。また、「フル置換タイプ」の場合、既存実装のエスケープ処理よりどうしてもパフォーマンスは劣化するため、XRF Composerでは設定により「フル置換タイプ」と既存実装の動作を切り替えることができるようにしました。

詳しくは、『XRFComposer 開発ガイド』を参照してください。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能の変更または修正されました。

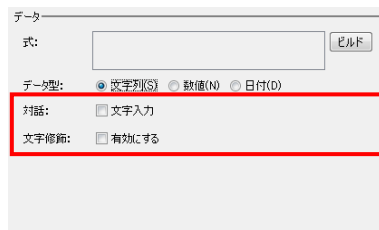
1. XRF Designerにおいて、テキストの部分修飾の機能追加に合わせて、ユーザフィールドプロパティダイアログのレイアウトを変更しました。



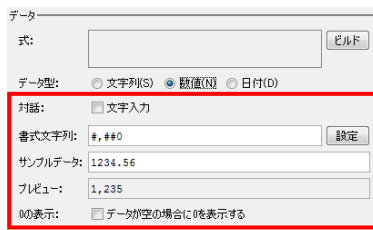
既存のユーザフィールドプロパティダイアログでは、表示されるデータの設定項目が固定でした（左図参照）。

本バージョンより、データ型の選択に応じて、設定項目が切り替わるようになりました（下図参照）。

データ型が「文字列」の場合：



データ型が「数値」の場合：



データ型が「日付」の場合：

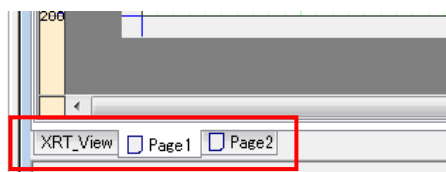


2. XRF Designerのフォーム編集において、ユーザフィールドのサンプルデータ表示を改善しました。これまでは、サンプルデータとして「X」マークを表示していたものを、桁数+「X」マークが表示されるようになりました。桁数とは、対象のユーザフィールドの領域に収まる1行あたりの半角文字（1バイト文字）の数になります。桁数は、対象のユーザフィールドの1バイトフォントに指定されたフォントサイズと領域のサイズから自動計算されます。指定されている1バイトフォント

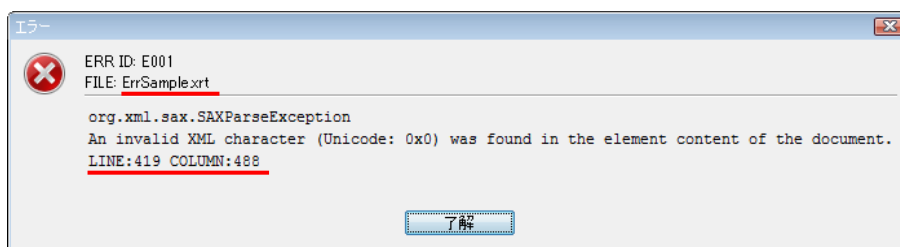
がプロポーショナルフォントの場合、文字により文字幅が変わるため、必ずしも表示された桁数が領域内に収まりません。なお、桁数が1の場合、桁数は表示されず、「X」の1字のみ表示します。

表示例) 10XXXXXXXX

3. XRF Designerのフォーム編集において、フィールド表示モードに書式文字列が選択された場合にページ番号フィールドも書式を表示するようになりました。これまでは、ユーザフィールド（数値型と日付型）のみ書式を表示していました。
4. XRF Designerのビルド式ダイアログで、パラメータ区切り（,）ボタンを追加しました。
5. XRF Designerのビルド式ダイアログで、式中にサロゲートペアや合字が使われた場合に入力欄の空白文字の表示位置が不正になる問題を修正しました。
6. XRF Designerのフォーム編集画面のページビュータブにアイコンを追加しました。



7. XRF Designerにおいて、編集したフォーム（XRTファイル）に配置した固定テキストの文字列やユーザフィールドのビルド式にサロゲートペアが使われると、フォームを開く際にエラーのメッセージが表示されフォームを開けなくなる場合があります。これは、XRTファイルはXML形式になっており、読み込み処理で使用しているライブラリ（Java標準のSAX Parser）でサロゲートペアを含むとエラーになる場合があるためです。
この問題に対応するため、編集したフォームをXRTファイルとして保存する際に、サロゲートペアの文字をXML文字参照に置換したうえで保存するように修正しました。



なお、すでに保存されているフォームを開き上記メッセージが表示された場合は、XRTファイルを直接テキストエディタで開いてメッセージに示されたエラー箇所（サロゲートペアが存在しているかどうか）を確認してください。エラー箇所は、上記メッセージの場合ですと「LINE:419（＝419行目）」「COLUMN:488（＝488桁目）」となっています。エラー箇所にサロゲートペアが存在していた場合、テキストエディタでそのサロゲートペアを削除のうえ保存し、改めてXRF Designerで開いてください。なお、開きなおした際に同様のメッセージが表示される場合は、サロゲートペアが複数使われていることが考えられますので、上記手順を繰り返し実施してください。

8. 固定テキストとユーザフィールド、ページ番号フィールドにおいて、行桁合わせ、または、縦位置を均等割り詰め指定し、文字列の最後が空行だった場合に、空行が描画されない不具合を修正しました。
9. XRF Designerにおいて、固定テキストとユーザフィールド、ページ番号フィールドのテキストの配置設定を横位置に均等割り詰めを選択した場合に、制御の設定を変更できるようになりました。

XRF 3.6.6 Lv01 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. **XRF Composer V3.6.6**におけるダイナミックオーバーレイ機能の性能を改善において、PDF生成処理に一部不具合があったため修正しました。**XRF Composer**のPDF生成機能において、PDFファイルサイズ優先モードを有効にした場合に、固定テキストや固定イメージ、図形などが意図しないページに描画されてしまう不具合を改修しました。この不具合は、**PDFファイルサイズ優先モード**を有効にしたうえで、ロット化したフォームから**PDF**を生成、または、ダイナミックオーバーレイ機能を使用する場合に発生する可能性があります。

XRF 3.6.6 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. ページ番号フィールドに、複数フォームをまたがったページ番号および総ページ数を表示する機能を追加しました。これは、1つの帳票ファイルに複数フォーム（XRT）を含める場合に、複数フォームをまたがり、1帳票ファイル内を通してページ番号がインクリメントするページ番号書式になります。なお、1つの帳票ファイルに複数フォームを含める場合とは、ロット化フォームの場合、および、XRF Composerで帳票生成する際にダイナミックオーバーレイ機能を使用した場合になります。

この新しいページ番号の機能として、次のパターン文字を追加しました。XRF Designerで編集を行い、ページ番号フィールドの書式にこのパターン文字を指定してください。

パターン文字	詳細
%tp	複数フォームにまたがったページ番号。
%atp	複数フォームにまたがった総ページ数。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Composerにおいて、プログレッシブ形式のJPEGイメージが生成するPDFに含まれる場合にハングアップする障害を修正しました。ハングアップする条件は、プログレッシブ形式のJPEGイメージを使用していること、かつ、そのJPEGファイルのサイズが大きいこと（数百キロバイト以上）、PDF生成をマルチスレッドで行いJPEGファイルの読み込みが複数同時に発生したタイミングであることです。この修正により、画像の印字イメージが変わることはありません。
2. XRF Composerにおいて、ダイナミックオーバーレイ機能の性能を改善しました。ダイナミックオーバーレイ機能の内部処理を見直すことで、特にダイナミックオーバーレイ機能で指定するフォーム数が多い場合に帳票生成速度が向上し、生成可能ページ数が増加しました。
3. エリアの可視切替え機能において、テーブル機能による改ページが発生した場合のページに、非表示になるべきエリアが表示されてしまう障害を修正しました。
4. XRF Readerのリモート表示機能において、表示中のXRFファイルが削除され存在しない場合に、XML出力がエラーになる不具合を修正しました。
5. データフィールドのビルド式の文字列リテラルに一部の制御文字（改行、水平タブ）を使用できるように改善しました。なお、文字列リテラルとは、ビルド式中で""で囲んだ文字の部分指します。
6. XRF Designerのビルド式ダイアログの改善を行い、ビルド式の可読性を改善しました。改行文字、空白文字（全角・半角）、タブ文字が、式の編集エリアに入力された場合、それぞれ対応する図形を描画することで可視化しています。また、これまではビルド式の文字列リテラル以外にこれらの文字を入力した場合は取り除いた上で保存していましたが、これを取り除かないように修正しました。これにより、ビルド式が複雑な場合に、関数などの式の項目の間に見やすいようにスペースやインデントを設けた状態でフォームを維持・管理できるようになりました。

XRF 3.6.5 Lv19 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Designerにおいて、フィールドのビルド式を設定する式ビルダダイアログを拡大しました。
設定確認、入力がしやすくなりました。
2. XRF Designerにおいて、データ定義体の新規作成ダイアログで、「フォームから作成」を選択したときのFile Chooserから、データ定義体ファイル、共有エリアファイル、クエリーファイルが選択できてしまう障害を修正しました。
3. XRF Designerにおいて、エリアビューのオブジェクトが選択されている状態で「共有エリアとして登録」が選択できてしまう障害を修正しました。

XRF 3.6.5 Lv18 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. テキストの印字位置がずれる不具合、およびフォントサイズに少数値（9.5ポイントなど）の指定をしても実際より小さいフォント（9.5ポイントを指定した場合は9ポイント）で印字されてしまう不具合を改修しました。この不具合は、**XRF Designer/Viewer**および**XRF Reader**、**XRF Composer**（PDF生成機能）で発生します。印字位置のずれは、プロポーショナルフォントを指定し、フォントサイズに少数値の指定が含まれる場合に発生します。また、**XRF Composer**のPDF生成機能においては、スレッドプールを用いて**XRF Composer**のAPIを使用し連続でPDFを生成する場合、および、ダイナミックオーバーレイ機能を使用する際に指定するフォームの組合せによって印字位置のずれが発生する可能性があります。

XRF 3.6.5 Lv17 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF ComposerのPDF生成機能において、イメージが稀に別のイメージと置き換わる不具合を改修しました。この不具合は、JVMにIBM Javaを使用しているときに、比較的高い頻度で発生します。

XRF 3.6.5 Lv16 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF ComposerのPDF生成機能において、メモリ上に保持した画像データを解放するタイミングを見直しました。これにより大容量サイズの画像データを扱う際のパフォーマンスが改善しました。

XRF 3.6.5 Lv15 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Readerにおいて、Windows Server 2012 / 2012 R2対応しました。

2. 機能の変更について

本バージョンで変更または修正された機能はありません。

XRF 3.6.5 Lv13 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF ComposerのPDF生成機能において、次の処理を見直すことで、生成されるPDFのファイルサイズを削減しました。
 - ダイナミックオーバーレイ等で1つのフォームを複数回指定して1つのPDFファイルを生成する場合に、PDFデータ内に保持する同じ画像データを重複して保持してしまう事象を修正
 - PDFデータの「色透過定義」オペレータを一部使いまわすように修正

XRF 3.6.5 Lv11 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Composerにおいて、Windows Server 2012 R2に対応しました。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF ComposerのPDF生成機能において、PDFファイルサイズ優先モードを有効にした場合に、固定テキストや固定イメージ、図形などが意図しないページに描画されてしまう不具合を改修しました。
この不具合は、PDFファイルサイズ優先モードを有効にしたうえで、ロット化したフォームからPDFを生成する場合、ダイナミックオーバーレイ機能を使用する場合に発生する可能性があります。また、PDF生成機能におけるReportMissionモード（日立ソリューションズ社製品ReportMissionで取り込み可能なPDFを生成する機能）を有効にしている場合では、PDFファイルサイズ優先モードを有効にしている場合でも不具合は発生しません。
なお、本不具合はXRF 3.6.5 Lv07のみで発生します。
2. XRF ReaderにおけるXRFファイルの表示・印刷において、同一ページ内に複数のページ番号フィールドが定義されている場合に、ページ番号フィールドの総ページ数（&ap）が正常に表示されない不具合について改修しました。

XRF 3.6.5 Lv08 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF ファイルを開く際に印刷ダイアログを自動で表示する機能を追加しました。
本機能は、XRF ComposerでXRFファイルを生成する際に、XRFファイルに指定する「Reader起動モード」に「XRF Readerで印刷ダイアログを自動で表示する」オプションを指定することで利用できます。このオプションは、帳票生成APIのパラメータもしくは、コンフィグ設定ファイルの設定項目で指定します。
このオプションを指定して生成したXRFファイルを、XRF Readerで開くと自動で印刷ダイアログが表示されます。表示する印刷ダイアログは、既存のXRF Readerの印刷ダイアログと同じものです。

2. 機能の変更について

本バージョンで変更または修正された機能はありません。

XRF 3.6.5 Lv07 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. PDF一時分割生成機能 ～大容量PDFの生成に対応～
XRF ComposerのPDF生成において、大容量PDFを生成するための機能「PDF一時分割生成」を追加しました。
PDF一時分割生成機能は、一定のページ数で一時的に分割してPDFを生成し、最後にそれらのPDFを結合することで、従来のPDF生成処理よりもメモリ消費を抑えることで、大容量のPDFの生成ができるようになりました。1ページ当たりのオブジェクト数などにもよりますが、数万ページのPDFでも生成できるようになりました。
PDF一時分割生成機能を使用するには、XRF ComposerのコンフィグファイルまたはAPIパラメータで指定します。詳しくは「XRF Composer 開発ガイド」を参照してください。
なお、PDF一時分割生成機能の制限事項として、PDF入力フォーム（データフィールドの「対話」設定を有効にしたもの）を使用したPDFの生成は、動作保証外となりますのでご注意ください。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Composer動作モードの“一時ファイルモード”において、分割ページ数（一時ファイルを作成する単位のページ数）を指定できるようになりました。従来の分割ページ数は固定で1000ページ単位となっており、1ページあたりのオブジェクト数が多い場合には、一時ファイルモードであってもメモリ不足となりPDFが生成できない場合があります。1ページあたりのオブジェクト数が多い帳票を生成する場合は、分割ページ数に小さい値を設定してください。分割ページ数は、XRF Composerのコンフィグファイルで指定します。
2. XRF ComposerのPDF生成において、PDFセキュリティパラメータ「フィールドの入力可否」を有効に指定した場合にエラーとなっていた問題を修正しました。
3. XRF ComposerのPDF生成において、ReportMissionモードを使用するかどうかをAPIパラメータで指定できるようになりました。これまでは、XRF Composerのコンフィグファイルでのみ指定可能でした。
4. XRF ComposerのPDF生成において、ReportMissionモードを使用した場合に、1ページあたりのオブジェクト数が多いPDFがReportMissionに取り込めない不具合を修正しました。

XRF 3.6.5 Lv06 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. エリアの可視切替え機能

データに応じてエリアの可視／不可視（表示／非表示）を切替える機能を追加しました。

XRF Designerでフォーム編集をする際に、エリアのプロパティ画面の条件書式タブにて書式種別に「条件に一致した場合に非表示にする」を選択したうえで条件式を設定することで、機能が利用できます。

この機能追加により、既存フォームが扱えなくなることはありません。既存フォームを使用する場合は、書式種別が「指定なし」として扱われ、これまでと同様の動作となります。

2. テーブル機能において明細レコードの出力方式（明細出力方式）が選択できるようになり、これまでの「条件が一致した最初のレコードを出力する」方式に加え「条件が一致したすべてのレコードを出力する」方式が選択可能になりました。

この機能追加により、既存フォームが扱えなくなることはありません。これまでの明細出力方式は「条件が一致した最初のレコードを出力する」方式と同じであり、既存フォームを使用する場合はこちらの方式として扱われます。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Designerの共有エリアにおける編集方法を見直しました。今回の見直しにより、共有エリアを直接開いて編集可能な画面を追加することで、共有エリアの編集が容易になります。
2. XRF Designerの共有エリアにおいて、データフィールドが含まれている共有エリアを挿入しようとした際にエラーとなる不具合を修正しました。
3. XRF ComposerのPDF生成パフォーマンスが改善しました。生成されるPDFデータにおけるオペレータの使い方を見直すことで無駄なオペレータを削減し、PDFのファイルサイズを削減しました。これに伴いPDFの生成時間も短縮しました。なお、改善の程度はフォームのデザインや帳票データに依存しますが、複雑なフォームのデザインや帳票データが大きい場合により改善がある傾向があります。
4. XRF ComposerのPDF生成のフォント埋め込み機能において、埋め込み対象のフォントを細かく指定できるようになりました。これまでは、埋め込むフォントをディレクトリ指定により一括で指定することができましたが、今回の修正により、特定のフォントのフォントファイル名を指定し埋め込み対象外にできるようにしました。フォント埋め込みの対象外としたフォントは、PDFを閲覧する環境にそのフォントがインストールされている必要があります。
5. XRF ComposerのPDF生成機能において、PDFファイルサイズ優先モードを有効にした場合に、テキストの右寄せや取り消し線の印字がずれる不具合を改修しました。

3. 互換性について

本バージョンで追加された機能によりフォーム定義のフォーマットに変更がありますが、過去バージョンにより作成されたフォームはそのまま使用することができます。

XRF 3.6.5 Lv05 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. CSVサンプルデータ出力機能

XRF Designerのデータ定義体編集において、編集集中のデータ定義体をもとにCSV形式のサンプルデータを出力する機能（CSVサンプルデータ出力）を追加しました。

本機能により、CSVのテストデータ作成が簡単になり、生成したCSVファイルはXRF Viewerで帳票の表示確認を行う際や、XRF Composerで帳票生成テストを行う際に利用できます。

また、XRFと当社プロダクトであるBSP-RMおよびSmartConductorを組合せて帳票基盤を構築する際には、CSV形式データの「カラムヘッダファイル」を用意していただく必要がありますが、その際にも本機能で作成したデータを利用していただくことが可能です。

使用手順については、「3. CSVサンプルデータ出力機能の使用手順」を参照ください。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Designerのデータ定義体編集画面において、ツリービューで編集を行う際の親ノード・子ノードの「貼り付け」操作を見直しました。これまでは、親ノードを選択しているときにその親ノードの一番最後（一番下）にだけ貼り付けることができました。今回、任意の親ノード・子ノードを選択しているときに、その選択したノードの次（下）に貼り付けできるように見直しました。
2. XRF Designerのデータ定義体編集画面のブラウザビュー機能において、表示されるXMLデータの内容を見直しました。これまで表示されるデータは、データ定義体のタグ名と同じでしたが、データタイプがNumberまたはDateTimeの場合にデータタイプと合わせたものを表示するようになりました。

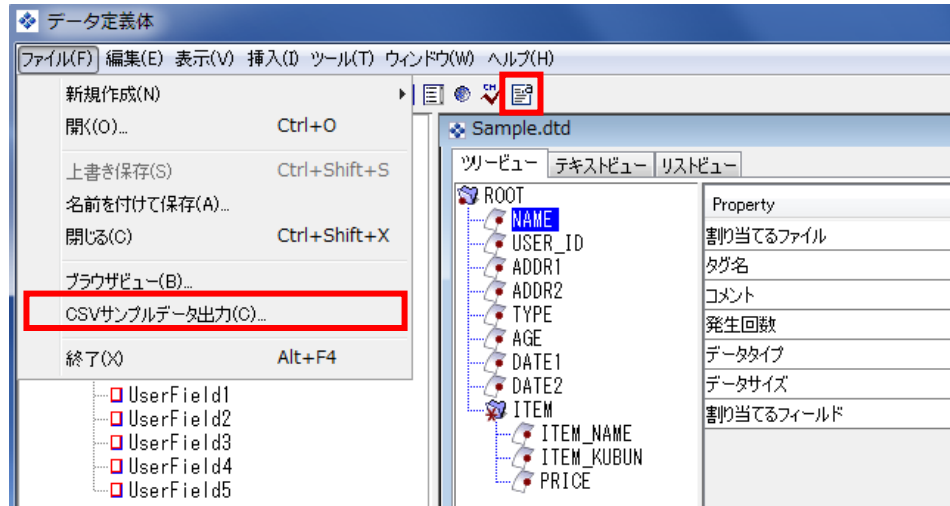
例)	データタイプ	表示されるデータ例
	Number	99999
	DateTime	20140922194750 (現在時刻)

3. XRF Designerのフォーム編集画面（XRT View）において、ツリービューのオブジェクトをダブルクリックで選択した際に、選択したオブジェクトに合わせてXRT Viewのページビューやテーブルビューの表示、テーブルビュー内の編集対象レコードが切り替わるように変更しました。

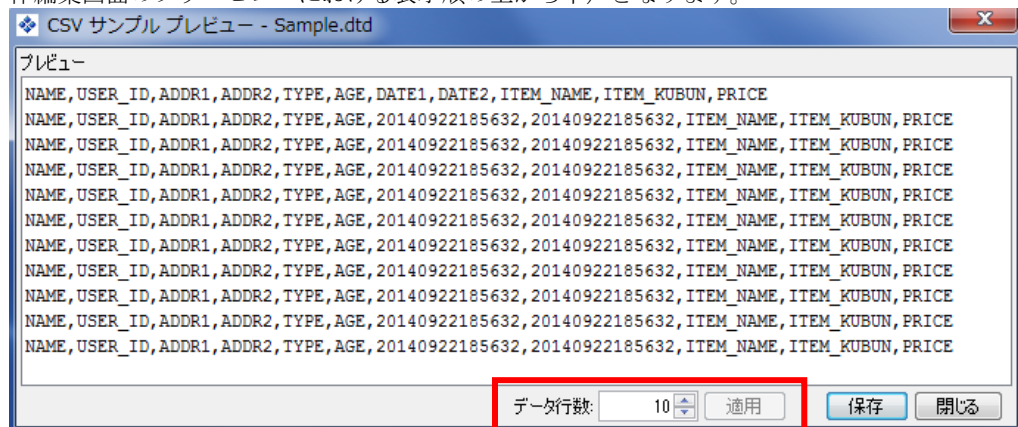
3. CSVサンプルデータ出力機能の使用手順

下記に、CSVサンプルデータ出力機能の使用方法を説明します

1. データ定義体編集画面でデータ定義体を編集中に、メニュー[ファイル(F)]-[CSVサンプルデータ出力(C)...]を選択するか、ツールバーのボタン (📄) を選択します。



2. CSVサンプルデータプレビューダイアログを表示します。このとき、編集中のデータ定義体に合わせたデータ項目で表示されます。また、カラム順はデータ定義体の子ノードの順（データ定義体編集画面のツリービューにおける表示順の上から下）となります。



3. CSVサンプルデータプレビューダイアログでは、出力するデータ行数を0行～9,999行の範囲で指定することができます。データ行数に0行を指定した場合、カラムヘッダ行のみのデータを出力し、これは、BSP-RMおよびSmartConductorと組合せてXRFを使用していただく際のカラムヘッダファイルとして利用できます。
4. 保存ボタンを押すと保存先を選択するダイアログが表示されますので、任意の保存先を指定し保存してください。

XRF 3.6.5 Lv04 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. **XRF Composer** においてCSV ユーザデータを入力とした帳票生成 (**XRF**) をおこなった場合に、特定のケースで **XRF Reader** での描画がエラーとなる不具合を改修しました。CSV の同一カラム内に、複数種類の XML 禁則文字 (& 、< 、>) が含まれているときに、同現象が発生していました。

XRF 3.6.5 Lv03 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Designer／ViewerのGUIにおいて、アプリケーション内のフォントの扱いを変更しました。
なお、本変更による帳票の描画および印刷結果への影響はありません。

XRF 3.6.5 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF ComposerのPDF生成において、文書レベルのJavaScriptを埋め込む機能を追加しました。文書レベルのJavaScriptはPDFをAdobe Reader等のPDFビューアでファイルを開いたタイミングで実行されます。
2. XRF Composerのリモート表示機能(XRF Remote Launch BrokerのtoView API)を使用してXRF 帳票の表示を行った場合に、XRF Readerで印刷ダイアログを表示する機能を追加しました。表示する印刷ダイアログは、既存のXRF Readerの印刷ダイアログと同じものです。

2. 機能の変更について

本バージョンで変更または修正された機能はありません。

XRF 3.6.4 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF Readerにおいて、Windows 8.1 (x64) に対応しました。

2. 機能の変更について

本バージョンで変更または修正された機能はありません。

XRF 3.6.3 Lv01 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF ComposerのPDF生成において、フォント埋め込みを行った場合の不具合を修正しました。
 1. True Typeフォントのうちフォントファイルに文字修飾（太字／斜体）の情報がないフォント（例：OCRB、Arial Unicode MSなど）を使用した場合に、生成されるPDFで文字修飾が有効にならない問題を修正しました。
2. XRF ComposerのPDF生成において、ReportMissionモードを利用した場合の不具合を修正しました。
 1. 明朝（MS明朝）フォントの文字修飾（太字／斜体）がReportMissionに取り込めるようになりました。これまでは、明朝フォントで文字修飾があった場合にMSゴシックに置き換えられていました。
 2. OCRBフォントがReportMissionに取り込まれるようになりました。これまではMSゴシックで表示されていました。

XRF 3.6.3 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. ReportMission連携機能

日立ソリューションズ社製品 **ReportMission** で取り込み可能なPDFを、XRF Composerで生成する機能を追加しました。本機能の仕様上の制限事項については、「XRF 3 制限一覧 第5版」を参照してください。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Composerにおいて、PDF生成時に新漢字モードを使用した場合、外字フォントを埋め込めない不具合を改修しました。

XRF 3.6.1Lv05 リリースノート

1. 新機能について

1. 本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Readerの印刷ダイアログが表示されるまでの時間が改善されました。

XRF 3.6.1 Lv02 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Readerにおいてベトナム語（ラテン特殊文字のダイアクリティカル・マーク）が正しく結合されて印刷されない問題を修正しました。

XRF 3.6.1 Lv01 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 特定のプリンタにおいて半角スペースが中黒で印字されてしまう問題の対応として、描画処理の半角スペースの扱いを変更しました。本変更により、**XRF Composer**におけるPDF生成において、PDFのファイルサイズが旧バージョンよりも小さくなる可能性があります。

XRF 3.6.1 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF ComposerおよびXRF Readerにおいて、Windows Server 2008 R2 (x64) に対応しました。
2. オリジナルデータ出力機能
XRFファイルから、XRFファイルを作成する際に使用したデータを取り出すことができるようになりました。ただし、取り出すことのできるオリジナルデータはCSV形式とTEXT形式のデータに限られます。また、XRFファイル作成の際に、オリジナルデータをXRFファイルに埋め込む必要があります。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Readerの検索機能において、空白（空データおよびブランク）フィールドを含めた複合検索ができるようになりました。
2. XRF Readerを実行する際に、Windowsのユーザアカウント制御機能によって表示されていた権限昇格ダイアログを表示しないように改修しました。

XRF 3.6.0 Lv12 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. MDATE関数（作成日付取得関数）

既存のNOW関数がXRFでは表示・印刷した日付を取得していたのに対し、MDATE関数はXRFを作成した日付を取得します。なお、PDF生成で使用した場合は、NOW関数と同じ振る舞いをします。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Readerの検索機能においてXRTを跨ぐ検索ができないなどの不具合を改修しました。

XRF 3.6.0 Lv11 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF ComposerにおいてジョブファイルのAPIを用いて帳票印刷を行う際に、XRFファイルのファイルパスにURLが使用できるようになりました。

XRF 3.6.0 Lv10 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. Windows 7 (x86) に対応しました。

- マルチユーザ対応

ユーザ簡易切り替え（マルチユーザ機能）による複数ログインでのXRF Readerの使用が可能になりました。ただし、同一アカウントによるXRF Readerの複数起動はサポートしません。

- 新漢字対応

JISX213規格のユニコードについてサロゲート・ペアに対応しました。

新漢字のグリフの描画・印刷結果はOSまたはプリンタにインストールされているフォントセットに依存します。また、JISX213に対応したMicrosoftのフォントセットについて、Windows Vista以降でグリフが変更された文字が存在するため、Windows XP、Windows Server 2003以前と印刷結果が異なる可能性があります。詳細はMicrosoft社の公開情報「Windows 7 および Windows Server 2008 R2 向け JIS90 互換 MS ゴシック・明朝フォントパッケージについて」を参照してください。(http://www.microsoft.com/ja-jp/windows/windows-7/jp_font/fontpackage.aspx)

また、XRF ComposerのPDF Suitについては、ユーザフィールドおよび固定テキストでのみ新漢字のグリフの描画が可能となります。

2. XRF Reader Environment Configurer (XRF Reader 管理ツール)を追加しました。XRF Readerで使用する設定ファイルおよびログファイルを、GUIのエディタで参照・編集することができるようになりました。機能の詳細と使用方法については「XRFReader V3.6 管理ツール操作マニュアル」を参照してください。

3. テキストの描画において「0の表示」オプションの追加を行いました。この機能はDURLとの互換機能となります。数値型ユーザフィールドの入力値が0であった場合に、フィールドの値の表示・非表示を設定することが可能になります。機能を使用する場合、ユーザフィールドのプロパティ全般タブで本オプションを有効にします。オプションを有効にすると非表示指定となります。

なお、XRF V3.6.0Lv09 以前のフォームを使用する場合、本オプションは無効なため、修正による影響はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Readerの設定ファイルとログファイルの配置の変更

Windows 7 対応にともない一部のリソースファイルとログファイルの配置を変更しました。この変更はすべてのWindowsプラットフォームに適用されます。

【リソース配置の変更】

変更対象ファイル名	元の格納先	変更先
Log4j.properties	{インストールフォルダ}\¥conf	%APPDATA%\¥XRF Reader¥conf
prmConfig.xml		
xjasys.xml		
fontNamesInfo.xml		%AllUsersProfile%\¥XRF Reader¥conf
trayNameNumber.xml		
prmConfig.properties	—	
reader.log	%ProgramData%\¥XRF Reader¥log	%APPDATA%\¥XRF Reader¥log

2. XRF Readerにおいて、プリンタドライバのステータスがジョブの受け入れ不可の場合でも、OSにスプールされるようJavaモジュールを修正しました。 #3499

製品はJavaモジュールを内包し、Javaの機能を使って印刷を行っています。

Javaの印刷処理（つまり現状の製品仕様）では、OSからプリンタドライバ（プリントサービス）がジョブを受け入れ可能かどうかのステータスを取得し、受け入れ不可の場合に印刷を行うとエラーを返します。このときXRF Readerの印刷もエラーになります。よって、OSへはスプールされません。

一方、ExcelなどのMS製品では、プリンタドライバが同様の状態でも、OSへスプールされます。今回、プリンタドライバの状態に関わらず、XRF ReaderがOSへスプールしてほしいとの要望により、Javaの実行モジュールを修正しパッチをリリースします。XRF Reader インストーラの「プリンタチェック機能の選択」ダイアログで「プリンタチェック機能を使用しない」をオンにすると、パッチが適用されます。

3. シンプルグラフにて棒グラフを横方向に変更できない不具合を修正しました。 #3483

グラフ領域に表示する棒の高さは縦軸のデータ数に依存するため、棒の高さを調整するにはグラフ領域の高さを変更する必要があります。

4. 数値型のユーザフィールドにて欧文フォントを使用した場合に、貨幣単位“¥”が描画できない不具合を修正しました。

5. 印刷範囲指定についてXRF Reader GUIからの印刷と、XRF Composerを使用したXRF印刷の仕様が異なる不具合を修正しました。

XRF 3.6.0 Lv09 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. テキストの描画において、「2バイト文字（全角文字）の文字間隔を2倍に描画する」機能を追加しました。機能を使用する場合、フォームのプロパティの詳細設定タブで本オプションを有効にします。オプションを有効にすると、等幅フォントの描画開始位置が揃って表示されます。なお、XRF V3.6.0Lv08 以前のフォームを使用する場合、本オプションは無効なため、修正による影響はありません。

※「2バイト文字（全角文字）の文字間隔を2倍に描画する」オプションは等幅フォント、プロポーショナルフォントにかかわらず、すべての2バイト文字に適用されます。なお、本オプションは横書きの場合に限られます。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能に変更または修正されました。

1. 固定バーコード（QRCode、PDF417）について、特定の文字を値として使用することができない不具合を修正しました。#2439
2. テーブル明細行のレコード出力条件設定画面において、条件式に使用できない関数が式項目のツリー上に表示されている問題を修正しました。#2438
3. XRF ReaderおよびXRF Viewerで帳票を開くときの進捗ダイアログに「閉じる」ボタンを追加しました。#1889

XRF 3.6.0 Lv08 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. SUBSTRINGB関数（文字列関数）

既存のSUBSTRING関数が抽出する文字列の位置を、文字単位で指定するのに対し、SUBSTRINGB関数はバイト単位で指定します。このとき、半角文字が1バイト、全角文字が2バイトの換算になります。この関数で扱えるデータはMS932でサポートされる文字になります。なお、データにMS932がサポートしない文字が含まれていた場合、演算結果は不正になります。SUBSTRINGB関数の使用方法は次の通りです。

【使用方法】

SUBSTRINGB（データ，開始位置，終了位置）

SUBSTRINGB（データ，開始位置）

※ 終了位置を省略した場合、文字列の最後までとなります。

2. 機能の変更について

本バージョンで変更または修正された機能はありません。

XRF 3.6.0 Lv07 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. 「トレイ名番号」による給紙トレイの指定

XRFパラメータの印刷属性である給紙トレイに「トレイ名番号」を指定できるようになりました。トレイ名番号は、プリンタの給紙トレイ名を一意に示すトレイ番号です。トレイ番号と給紙トレイ名の対応は、「トレイ名番号対応表」で定義されます。トレイ名番号対応表については、「3. トレイ名番号対応表」を参照してください。

XRF ComposerのAPIでXRFファイルを生成する際に「トレイ名番号」で給紙トレイを指定すると、XRF Readerで印刷する際には、トレイ名番号対応表で対応付けられた給紙トレイを使い印刷を行います。印刷するプリンタに指定された給紙トレイがない場合、トレイ名番号の指定は無視されます。

なお、XRFパラメータについて、詳しくは『XRF Composer 開発ガイド』を参照してください。

2. 機能の変更について

本バージョンで変更または修正された機能はありません。

3. トレイ名番号対応表

「トレイ名番号対応表」定義ファイルのインストール場所は下記になります。また、プリセットされたトレイ名番号対応表の定義内容は次表のとおりです。

【トレイ名番号対応表の定義ファイル】

XRF Readerのインストールディレクトリ/conf/trayNameNumber.xml

【トレイ名番号対応表の初期値】

トレイ名番号	給紙トレイ名	
9000	最上部	
9001	中段部	
9002	最下部	
9003	封筒	
9004	手差し	
9005	大容量	
9006	メイン	
9010	top	
9011	middle	
9012	bottom	
9013	envelope	
9014	manual	
9015	large-capacity	

トレイ名番号	給紙トレイ名	
9016	main	
9020	Manual-Envelope	
9021	Automatic-Feeder	
9022	Tractor-Feeder	
9023	Small-Format	
9024	Large-Format	
9025	Form-Source	
9101	トレイ1	※1
9102	トレイ2	※1
9103	トレイ3	※1
9104	トレイ4	※1
9105	トレイ5	※1
9106	トレイ6	※1

トレイ名番号	給紙トレイ名	
9107	トレイ 7	※1
9108	トレイ 8	※1
9109	トレイ 9	※1
9111	トレイ 1	※2
9112	トレイ 2	※2
9113	トレイ 3	※2
9114	トレイ 4	※2
9115	トレイ 5	※2
9116	トレイ 6	※2
9117	トレイ 7	※2
9118	トレイ 8	※2
9119	トレイ 9	※2
9121	トレイ 1	※3
9122	トレイ 2	※3
9123	トレイ 3	※3
9124	トレイ 4	※3
9125	トレイ 5	※3
9126	トレイ 6	※3
9127	トレイ 7	※3
9128	トレイ 8	※3
9129	トレイ 9	※3
9131	トレイ 1	※4
9132	トレイ 2	※4
9133	トレイ 3	※4
9134	トレイ 4	※4
9135	トレイ 5	※4
9136	トレイ 6	※4
9137	トレイ 7	※4
9138	トレイ 8	※4
9139	トレイ 9	※4
9141	トレイ 1	※5
9142	トレイ 2	※5
9143	トレイ 3	※5
9144	トレイ 4	※5
9145	トレイ 5	※5
9146	トレイ 6	※5
9147	トレイ 7	※5
9148	トレイ 8	※5
9149	トレイ 9	※5

トレイ名番号	給紙トレイ名	
9151	Tray1	
9152	Tray2	
9153	Tray3	
9154	Tray4	
9155	Tray5	
9156	Tray6	
9157	Tray7	
9158	Tray8	
9159	Tray9	
9161	Tray 1	※6
9162	Tray 2	※6
9163	Tray 3	※6
9164	Tray 4	※6
9165	Tray 5	※6
9166	Tray 6	※6
9167	Tray 7	※6
9168	Tray 8	※6
9169	Tray 9	※6
9201	カセット1	※7
9202	カセット2	※7
9203	カセット3	※7
9204	カセット4	※7
9205	カセット5	※7
9206	カセット6	※7
9207	カセット7	※7
9208	カセット8	※7
9209	カセット9	※7
9211	カセット 1	※8
9212	カセット 2	※8
9213	カセット 3	※8
9214	カセット 4	※8
9215	カセット 5	※8
9216	カセット 6	※8
9217	カセット 7	※8
9218	カセット 8	※8
9219	カセット 9	※8
9221	用紙カセット1	※9
9222	用紙カセット2	※9
9223	用紙カセット3	※9

トレイ名番号	給紙トレイ名	
9224	用紙カセット4	※9
9225	用紙カセット5	※9
9226	用紙カセット6	※9
9227	用紙カセット7	※9
9228	用紙カセット8	※9
9229	用紙カセット9	※9
9231	1 段目カセット	※10
9232	2 段目カセット	※10
9233	3 段目カセット	※10
9234	4 段目カセット	※10
9235	5 段目カセット	※10
9236	6 段目カセット	※10
9237	7 段目カセット	※10
9238	8 段目カセット	※10
9239	9 段目カセット	※10
9241	Cassette 1	※11
9242	Cassette 2	※11
9243	Cassette 3	※11
9244	Cassette 4	※11
9245	Cassette 5	※11
9246	Cassette 6	※11
9247	Cassette 7	※11
9248	Cassette 8	※11
9249	Cassette 9	※11
9251	Drawer 1	※12
9252	Drawer 2	※12
9253	Drawer 3	※12
9254	Drawer 4	※12
9255	Drawer 5	※12
9256	Drawer 6	※12
9257	Drawer 7	※12
9258	Drawer 8	※12
9259	Drawer 9	※12
9301	手差しトレイ	
9302	手差しトレイ	
9303	MPトレイ	
9304	MPトレイ	
9305	MPカセット	
9306	MPカセット	

トレイ名番号	給紙トレイ名	
9307	Manual Feed	
9308	MP Tray	
9309	MP Cassette	
9310	Bypass Tray	
9311	Manual Paper Feed	
9312	Manual Envelope Feed	
9321	自動選択	
9322	プリンタ自動選択	
9323	オートトレイ選択	
9324	用紙タイプ優先	
9325	用紙種類優先	
9326	Auto Selection	
9327	Automatically Select	
9328	Printer auto select	
9331	Large Capacity	
9332	大容量給紙カセット	
9333	大容量給紙装置	
9334	LCF	
9335	External LCF	
9501	普通紙	
9502	ラベル紙	
9503	ラベル紙	
9504	厚紙	
9505	穴あき用紙	
9506	メイン	
9507	Standard	
9508	Upper	
9509	Lower	
9510	Envelope Feed	
9511	Plain	
9512	Labels	
9513	Cardstock	
9514	Prepunched	

- ※1. “トレイ”は全角、数字は半角文字です。
 ※2. “トレイ”と数字は全角文字です。
 ※3. “トレイ”と数字は半角文字です。
 ※4. “トレイ”は全角、数字は半角文字です。“トレイ”
 と数字の間には半角スペースがあります。
 ※5. “トレイ”と数字は半角文字です。“トレイ”と数字の間
 には半角スペースがあります。
 ※6. “Tray”と数字の間には半角スペースがあります。

- ※7. “カセット”は全角、数字は半角文字です。
- ※8. “カセット”と数字は半角文字です。“カセット”と数字の間には半角スペースがあります。
- ※9. “カセット”と数字は半角文字です。
- ※10. 数字と“カセット”は全角文字です。
- ※11. “Cassette”と数字の間には半角スペースがあります。
- ※12. “Drawer”と数字の間には半角スペースがあります。

XRF 3.6.0 Lv06 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. **QRコード**印字の仕様を一部変更しました。"バイナリモード (情報の種類=バイナリ)"が指定された**QRコード**では、印字する際のシンボル化処理において、データのエンコードに**MS932**を使用します。本バージョンより、データに**MS932**がサポートしない文字が含まれていた場合、エンコードを**UTF-8**に切り替えて処理を行うよう機能を拡張しました。データが**MS932**のサポートする文字である場合、シンボルはこれまでと同様に印字されます。データ中の文字のいずれかが**MS932**でサポートされない場合は、データを**UTF-8**でエンコードし、シンボル化します。
なお、**UTF-8**でシンボル化された**QRコード**を読み取るには、読み取り装置 (バーコードリーダ等) が対応している必要があります。#2055

XRF 3.6.0 Lv05 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 関数機能において、MOD関数の計算精度が向上しました。これまでは「MOD(10.0,0.01)」の様に、割り切れて、かつ割る数値が少数の場合に演算結果が望ましい精度ではありませんでした（上記例の演算結果は「0.09999…」となっていました）。今回の修正により、整数部が10桁程度、少数部が6桁程度まで概ね正確な演算結果が得られます。#2091
2. 関数演算のエラー処理を改善しました。おもな改善内容は次の通りです。#2137
 - 四則演算(+・*)において、指定される値が、数値に変換できない文字データであった場合、これまでは「描画データ解析エラー」となっていたが、NaN (Not a Number) またはInfinityという結果がフォームに表示されるようになりました。
 - 集計関数 (SUM関数) の結果に対しゼロ割を行う場合、これまでは「描画データ解析エラー」となっていたが、NaNがフォームに表示されるようになりました。
3. XRF V3.6.0Lv04の修正により、特定のフォント（SimHei：中国語フォント、等）を使用したフォームにおいてPDFファイルを生成した場合、XRFファイルでの文字描画と比較してずれがある問題を修正しました。なおこの修正により、生成されるXRFファイルとPDFファイルの描画結果が、概ね同等になるよう修正されていますが、必ずしもXRFファイルとPDFファイルの描画結果がまったく同じであることを保証するものではありません。ご注意ください。#2176

XRF 3.6.0 Lv04 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 固定テキストおよびユーザフィールドにおいて、フォントにプロポーショナルフォントを選択した場合の描画処理を見直しました。これまでは、文字幅の計算に誤差があり、文字が詰まって描画される場合があります。特に特定のフォントにおいては誤差が大きく、文字が重なって描画されていました。この修正により、プロポーショナルフォントを使ったテキスト幅が長く描画され、描画結果が変わる場合があります。なお、製品の標準設定となっているプロポーショナルフォント、ArialおよびTimes New Romanにおいては、本修正による影響はありません。また、縦書きの描画処理が改善されました。**#2135**

XRF 3.6.0 Lv03 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 固定テキストおよびユーザフィールドのプロパティにおいて、フォントにプロポーショナルフォントを選択し、かつ制御方法を"領域内に文字を縮小して表示"とした場合、文字列の右端が欠ける場合があります。これを修正し、領域内に正しく縮小されるようになりました。なお、この修正により、縮小された文字の間隔がこれまでより詰まって表示されることがあります。#1959

XRF 3.6.0 Lv02 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. **XRF Designer**の式ビルダダイアログにおいて、ビルド式にデータ定義体要素の参照が多く使われていた場合に、ビルド式の有効性チェック処理に多くの時間がかかり、式ビルダダイアログの**OK**ボタンを押した際の応答に時間がかかっていました。有効性チェック処理を修正し、応答時間が改善されました。#1867
2. **XRF Reader**や**XRF Composer**において、フォームに設定されているビルド式が長い場合に処理時間がかかることがありました。これを修正し、**XRF Reader**における**XRF**ファイルの表示と、**XRF Composer**における**PDF**生成処理の性能が改善されました。#1963

XRF V3.6.0 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. XRF大容量対応

本バージョンより、大容量の帳票生成（XRF）と帳票印刷がおこなえるようになりました。

XRF ComposerおよびXRF Readerにおいて、動作モードとして“一時ファイルモード”が新たに追加されました。この動作モードは、処理中のデータを一時ファイルで管理することにより大容量帳票データの処理に対応しています。また、これまでのバージョンと互換性のある動作モードとして、“オンメモリモード”が用意されています。一時ファイルを生成しないため、“一時ファイルモード”に比べて高速で帳票データの処理をおこなうことができます。（ただし、このモードでは大容量データは扱えません）。

XRF Composerでは、1帳票あたり100MBの帳票データ（XML／CSV／TEXT ※1）によるXRFファイル生成（※2）が可能です。また、XRF Readerでは、10万ページのXRFファイルの印刷が可能です。

※1 帳票データを取得するデータベースは、大容量データに対応しておりません。

※2 帳票生成において、PDF形式の大容量データには対応しておりません。

2. テキストデータ対応

本バージョンより、TEXT形式データ（テキストデータ）を入力とした帳票生成がおこなえるようになりました。帳票データをより汎用的な形で対応することにより、帳票データを生成する上位アプリケーションの開発工数の削減ができます（特にメインフレーム等で帳票ツールを置き換える場合など）。XRFで利用できるテキストデータの詳細に関しては、『XRFユーザーズマニュアル』を参照してください。また、XRF DesignerおよびXRF Viewerでも、テキストデータを扱うための機能が追加されています。

XRF Composer

- テキストデータを入力とした帳票生成（XRF／PDF）が可能になりました。

XRF Designer

- データ定義体の新規作成において、テキストデータからデータ定義体を作成できるようになりました。
- ラインデータ（※1）用のフォームを簡便に作成するための「ラインデータフォーム・フィールド」機能が追加されました。

※1 1ライン1データで構成され、カラム名を指定するラインがないテキストデータです。

XRF Viewer

- テキストデータから帳票を表示できるようになりました。

3. オブジェクト情報のツールチップ表示

XRF Designerのフォーム編集画面において、マウスカーソルをオブジェクトの上に置くと、ツールチップが表示され、オブジェクト情報が確認できるようになりました。

これにより、複雑に入り組んだオブジェクトの中から目的のオブジェクトを選択しやすくなりました。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Viewerの開くダイアログが、テキストデータ対応とともに、新しく変更されました。
XRTファイル、ユーザデータファイルを選択する以外にも、ユーザデータファイル (CSV/TEXT) のエンコード等が指定できるようになりました。
2. XRF Designerにおいて、ユーザフィールドの式を編集するための式ビルダダイアログに、等号・不等号の編集ボタンが追加されました。

3. 互換性について

1. 本バージョンでは、大容量帳票データの対応のために、一時ファイルを使った処理を行います（一時ファイルモード）。大容量を扱う必要がなく、これまでの様に一時ファイルを出力させたくない場合は、動作モードをオンメモリモードに切り替えてご使用ください。なお、製品の既定値は一時ファイルモードに設定されています。

XRF V3.5.0Lv02 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF ReaderおよびXRF Viewer、XRF Composer、XRF Composer PDF Editionにおいて、フォームにリンクテーブルと固定テーブルを配置し、同じ繰り返し要素を設定し、かつ、リンクテーブルを固定テーブルの背面に配置した場合、リンクテーブルのデータが重複して表示される不具合を修正しました。

XRF 3.5.0Lv01 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Designerにおいて、データ定義体における子ノードの割り当てるフィールド設定を行っても、再度開き直すと設定が外れてしまう場合がある不具合を修正しました。

XRF 3.5.0 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. ジョブファイル機能が追加されました。ジョブファイルは、XRFファイルを格納するファイルフォーマットであり、XRFファイルの印刷を行うための機能です。XRF Composerにはジョブファイルの生成するAPIが追加されました。XRF Readerには、ジョブファイルを印刷するための機能が追加されました。
ジョブファイルにより、「複数の帳票の印刷順を守って印刷したい」、「一度の印刷で大量の帳票を扱いたい」などの運用要件を実現することができます。詳しくは、『XRF ユーザーズマニュアル』を参照してください。
2. XRF Composerの帳票生成APIに、複数フォーム（XPF）とユーザデータから1つの帳票を生成する「ダイナミックオーバーレイ」機能が追加されました。これまでのロット化形式では、オーバーレイ（XRT）の上限数が10まででしたが、「ダイナミックオーバーレイ」では、上限は無くオーバーレイ（XRT）を指定できるようになりました。ロット化形式による運用に比べ、より柔軟な帳票生成が行えるようになります。
3. 以下の関数が追加されました。

文字列関数	LEN（文字列長）、FIND（文字検索）、REPLACE（文字置換）、SPACE（空白文字の出力）、REPEATE（指定文字の出力）、TRIM（空白文字のトリム）
論理関数	AND（論理積）、OR（論理和）、NOT（論理否定）
日付関数	DTEXT（日付型データのフォーマット）、CDATE（文字列の日付型データ変換）

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Viewer、XRF Composer、およびXRF Readerにおいて、ユーザイメージに対するユーザデータで「イメージなし」を指定できるようになりました。
これまでは、イメージの指定が必須であり、XRF Composerの帳票生成時などで指定されていない場合、エラーとなっていました。これは多くの場合、期待される動作ではありませんでした。またこれは、XRF Viewerにおいて、帳票データを開くときも同様で、これまでは描画エラーとなっていました。
例) <!-- ユーザイメージの「イメージなし」として処理する -->
<KOKYAKU_IMAGE></KOKYAKU_IMAGE>
2. XRF Readerにおいて、印刷ダイアログの用紙サイズでデザインサイズが表示されるようになりました。また、同じく、Windowsのプリンタサーバに登録した用紙が表示されるようになりました。なお、プリンタサーバに登録した用紙は、ドライバまたは用紙のサイズにより、XRF Readerの印刷ダイアログに表示される場合とされない場合があります。
3. XRF Readerにおいて、印刷ダイアログから印刷を行いエラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されるようになりました。
これまでは、エラーが発生してもエラーメッセージを表示せず印刷終了していました。
4. XRF Readerにおいて、Windowsユーザの名称に日本語（英数字以外）が使われている場合に、起動しない不具合が修正され、正常に起動するようになりました。

3. 互換性について

1. XRF3.4以前で作成されたフォームは、XRF3.5で扱うことができます。
2. XRF 3.5では、新たに11の関数が追加されました。このため、新たに追加された関数を使用するフォームは、下位バージョンのXRFアプリケーションで扱えません。XRF3.5で追加されたジョブファイルは、下位バージョンのXRFアプリケーションで扱えません。
3. XRF3.5で追加されたダイナミックオーバーレイ機能で生成されるXRFファイルは、オーバーレイ（XRT）の数が11以上の場合、下位バージョンのXRFアプリケーションで扱えません。

XRF 3.4.7 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Designerにおいて、使用するRMIポート番号のインストール時の規定値を「1099」から「54444」に変更しました。
これまでは、RMIポートが「1099」だと競合しやすいという問題がありました。
2. XRF ComposerおよびXRF Composer PDF Editionにおいて、ユーザデータのイメージファイルパスの区切り文字に、これまでの「/」に加え「¥」が使用できるようになりました。
これまでは、「/」を使用しないとエラーが発生していました。
3. XRF Readerにおける印刷ダイアログの表示の際に、フォーム印刷設定項目が「個別設定」を選択されるよう変更しました。これにより、XRFファイルに設定された個別設定項目（用紙サイズやプレプリント印刷等）が、標準で印刷へ反映されようになりました。
4. ユーザフィールドのビルド式のSUBSTRING関数において、演算時に指定されたユーザデータの前後の空白文字がトリムされてしまう不具合を修正しました。
5. ユーザフィールドのビルド式のCONCAT関数において、CONCAT関数の最後のパラメータにデータ定義体要素またはユーザフィールドが指定すると、演算時にエラーになる不具合を修正しました。
6. ユーザフィールドのビルド式において、ユーザフィールドの相互参照となる設定がされた場合の演算時のエラー処理を改善しました。
7. XRF Designerにおいて、テーブルのレコード編集時にグリッド合わせの機能が有効にならない不具合を修正しました。
8. XRF Designerにおいて、テーブルのサマリレコードのプロパティで、対象レコードが指定されていない場合に、フォームの保存時にエラーチェックされるよう修正しました。
9. データ定義体の要素名に、「N」「O」「T」の3種類の文字だけを使った場合に、ユーザフィールドのプロパティダイアログでビルド式が変更できなくなってしまう不具合を修正しました。

XRF 3.4.6 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能に変更または修正されました。

1. XRF Viewer、XRF Composer、XRF Composer PDF Editionの設定ファイルにおいて、CSVデータのエンコードのデフォルト値を「SJIS」から「MS932」に変更しました。
2. XRF ComposerでCSVデータの処理を見直しパフォーマンスが改善されました。
処理速度が向上し、使用メモリ量は減少しました。
3. CSVデータのエンコードで「EUC_JP」、「UTF-8」、「UTF-16」が使用可能となりました。
EUC_JPとUTF-8は、CSVデータの1行目または設定ファイルで指定することができます。
UTF-16は、設定ファイルでは指定可能ですが、CSVデータの1行目では指定できません。
従来のエンコードも含めサポートされているエンコードは以下のとおりです。

エンコード	指定する文字	CSVデータの1行目で指定可能	設定ファイルで指定可能	備考
Shift-JIS	SJIS Shift_JIS Shift-JIS	○	○	既存
MS932	MS932 Windows-31J	○	○	既存
EUC_JP	EUC_JP EUC-JP	○	○	追加
UTF-8	UTF-8	○	○	追加
UTF-16	UTF-16	×	○	追加

XRF 3.4.5 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 継続テーブルを含む帳票をロット化しPDF生成を行う場合に、総ページ数が正しく表示されるように修正しました。これまでは、総ページ数が0と誤表記される場合があります。

XRF 3.4.4 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能の変更または修正されました。

1. ページ番号フィールドに以下のパターン文字が追加されました。

パターン文字	詳細
%p	ページごとに振られる番号
%ap	帳票に含まれる総ページ数
%cp	サイクリック帳票においてサイクル内で振られる番号。 サイクルの先頭でページ番号は1からカウントアップされます。
%acp	サイクリック帳票においてサイクル内の総ページ数

従来のパターン文字である「&p」と「&ap」は非推奨機能となりました。

詳しくは『XRF Designer フィールド設定マニュアル 第2版』をご参照ください。

2. 次の条件において、NOW関数が正しく演算されるように修正しました。
ページ上にマッピングを必要とするフィールドが存在せず、NOW関数を設定したフィールドを配置すると、正しく演算されませんでした。
3. XRF Readerの開くダイアログでXRFファイルのみ選択可能としました。
これまではXRF以外のファイルを選択でき、開こうとするとエラーが発生していました。
4. マッピング処理において、XML形式のユーザデータにデータ定義体に含まれていないタグが存在した場合のメッセージを、わかりやすいメッセージに修正しました。

XRF 3.4.3 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. ページ番号フィールドの総ページ数の表示（書式：&ap）に対し、フォームのプロパティにおける「前XRTからページ番号を継続」の設定が反映されるよう修正されました。「前XRTからページ番号を継続」は、フォームがロット化された場合に使用される設定項目であり、XRTをまたがってページ番号をカウントするかどうかを指定します。これまでは、ロット化されたフォームにおいて、総ページ数は必ず前XRTから継承されカウントされていました。

XRF Composer / XRF Composer PDF Edition

PDF生成において、生成される帳票の総ページ数の表示が正しくなります。

XRF Reader

XRFファイルの表示・印刷において総ページ数の表示が正しくなります。（このとき、XRFファイルをXRF Composerで生成しなおす必要はありません）

XRF Designer 3.4.2 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. XRF Designerで、トレースフォームで写しページ（副ページ）のグラフが正しく保存されるように修正しました。これまでは正しく保存されなかったため、XRF ViewerやXRF Readerで表示する場合、またはXRF ComposerでPDFを生成する場合に正しくグラフが描画されませんでした。
2. グラフの描画処理を改善し、描画精度が向上しました。
3. テーブルに対応するXMLデータがまったく存在しないファイルをXRF Viewerで開く際に、フィールドの描画データを生成する処理が正しく終了せず、応答が戻ってきませんでした。これを修正し、画面への描画、印刷が行われるようになりました。
4. XRF DesignerおよびXRF Viewerの[ヘルプ]-[目次]コマンドを廃止しました
5. 製品が内包するJava実行環境（JRE）を、「JRE 6 Update 4」へ更新しました。

XRF Composer 3.4.2 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. **XRF Designer**で、トレースフォームで写しページ（副ページ）のグラフが正しく保存されるように修正しました。これまでは正しく保存されなかったため、生成する**PDF**で正しくグラフが描画されませんでした。
2. グラフの描画処理を改善し、描画精度が向上しました。
3. **PDF**生成時に、テーブルに対応する**XML**データがまったく存在しない場合、フィールドの描画データを生成する処理が正しく終了せず、応答が戻ってきませんでした。これを修正し、正しく**PDF**が生成できるようになりました。

XRF Composer 3.4.2 PDF Edition リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. **XRF Designer**で、トレースフォームで写しページ（副ページ）のグラフが正しく保存されるように修正しました。これまでは正しく保存されなかったため、生成するPDFで正しくグラフが描画されませんでした。
2. グラフの描画処理を改善し、描画精度が向上しました。
3. PDF生成時に、テーブルに対応するXMLデータがまったく存在しない場合、フィールドの描画データを生成する処理が正しく終了せず、応答が戻ってきませんでした。これを修正し、正しくPDFが生成できるようになりました。

XRF Reader 3.4.2 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 標準でインストールしたXRF Readerのアプリケーション起動処理において、エラー処理が正しくなく、特定のタイミングで発生したエラーを検出できず、結果的に“印刷ジョブが抜け落ちたような状態”となっていました。この処理を見直し、安定して起動するように修正しました。また、本現象は「スタートアップに登録」でインストールした場合では発生していません。
2. XRF Designerで、トレースフォームで写しページ（副ページ）のグラフが正しく保存されるように修正しました。これまでは正しく保存されなかったため、XRF ViewerやXRF Readerで表示した場合に正しくグラフが描画されませんでした。
3. グラフの描画処理を改善し、描画精度が向上しました。
4. テーブルに対応するXMLデータがまったく存在しないXRFファイルを開く際に、フィールドの描画データを生成する処理が正しく終了せず、応答が戻ってきませんでした。これを修正し、画面への描画、印刷が行われるようになりました。
5. 製品が内包するJava実行環境（JRE）を、「JRE 6 Update 4」へ更新しました。
6. 5.に伴い、プリンタに"paper out（用紙なし）"ステータスがある場合に、印刷エラーとなる現象が回避されました。

XRF Designer 3.4.1 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 製品ロゴ（アイコンなど）を変更しました。
2. XRF ViewerでユーザデータにCSV形式を指定した場合の処理を見直しました。これによりデータ量の多いCSV形式を XML 形式へ変換する処理時間が大幅に短縮されました。
3. XRF Viewerでユーザデータをフィールドへ描画する処理を見直しました。これによりユーザデータのデータ量が多い場合の処理時間が大幅に短縮されました。

XRF Composer 3.4.1 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 動作環境のJREについて、JRE 1.3 を廃止し、JRE 5 および JRE 6 を追加しました。本バージョンより、動作環境は、JRE 1.4 および JRE 5 、JRE 6 となります。
2. 動作環境にJRE 5 および JRE 6 の追加に伴い、同梱されるライブラリを変更しました。
3. ユーザデータに CSV 形式を指定し XRF および PDF を生成する処理において、CSV 形式を XML 形式へ変換する処理を見直し、データ量が多い場合の処理時間が大幅に短くなりました。
4. ユーザデータより各フィールドへ描画するデータを計算する処理を見直し、PDF を生成する際に、特に大量データを処理する場合の処理時間が大幅に短くなりました。

XRF Composer 3.4.1 PDF Edition リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能に変更または修正されました。

1. 動作環境のJREについて、JRE 1.3 を廃止し、JRE 5 および JRE 6 を追加しました。本バージョンより、動作環境は、JRE 1.4 および JRE 5 、JRE 6 となります。
2. 動作環境にJRE 5 および JRE 6 の追加に伴い、同梱されるライブラリを変更しました。
3. ユーザデータに CSV 形式を指定し PDF を生成する処理において、CSV 形式を XML 形式へ変換する処理を見直し、データ量が多い場合の処理時間が大幅に短くなりました。
4. ユーザデータより各フィールドへ描画するデータを計算する処理を見直し、PDF を生成する際に、特に大量データを処理する場合の処理時間が大幅に短くなりました。

XRF Reader 3.4.1 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンで追加された機能はありません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. 製品ロゴ（アイコンなど）を変更しました。
2. 各フィールドの描画するデータを計算する処理を見直し、XRFの表示や印刷の際、特に大量データを処理する場合の処理時間が大幅に短くなりました。

XRF Reader 3.4.0 リリースノート

1. 新機能について

本バージョンより以下の機能が追加されました。

1. Windows Vista Businessに対応しました。
ただし、ユーザ簡易切り替え（マルチユーザ機能）による複数ログインでのXRF Readerの使用はサポートされません。

2. 機能の変更について

本バージョンより以下の機能が変更または修正されました。

1. サービス機能が分離され、別製品となりました。
2. [ヘルプ]・[目次]コマンドを廃止しました。

第三者が保有するソフトウェアライセンス

この製品には、次のソフトウェアが含まれています。

各ソフトウェアの著作権、商標権、特許権を含む知的財産権については、各知的財産権の保有者に帰属します。各ソフトウェアの免責条項については、各ソフトウェアのライセンスファイルを参照してください。

- Apache log4j
- DTDParser for Java
- Adoptium JDK 11.0.16
- Java Advanced Imaging
- JFreeChart